
**安芸高田市子供の生活実態調査
報告書（概要版）**

平成30年3月
広島県 安芸高田市

～ 目 次 ～

第1章 調査の概要 -----	1
【1】調査概要-----	1
【2】生活困難の定義について-----	2
第2章 生活困窮の状況 -----	4
【1】家計の状況-----	4
(1)食料が買えなかった経験-----	4
(2)衣類が買えなかった経験-----	5
(3)公共料金等の滞納経験-----	6
(4)物品等の所有状況-----	6
【2】子供の生活水準-----	6
(1)所有物の状況-----	6
(2)子供への支出-----	7
(3)子供の体験-----	7
【3】子供の食と栄養-----	8
(1)朝食の摂取状況-----	8
(2)栄養群の摂取状況-----	8
第3章 子供の学び -----	9
【1】学校の成績-----	9
【2】授業の理解や学習の状況-----	10
(1)授業の理解度-----	10
(2)授業がわからなくなった時期-----	11
【3】学校外での学習・勉強の状況-----	12
(1)勉強を教えてくれる人-----	12
(2)学校外での勉強時間及び学習塾・家庭教師の頻度-----	14
【4】学習環境-----	15
【5】将来の夢-----	15
(1)夢の有無と夢がない理由-----	15
(2)将来の進学希望-----	17
【6】子供の教育-----	18
第4章 子供の日常生活 -----	20
【1】家族や友だち-----	20
(1)家族の接し方-----	20
(2)友だちとの関係-----	20
【2】平日の食事-----	20
【3】平日の放課後の過ごし方-----	21
【4】活動の状況-----	21
(1)活動の状況-----	21
(2)運動の状況-----	22
(3)読書の状況-----	22
(4)就寝・起床時刻-----	22

(5) 歯磨き・入浴の頻度-----	23
【5】各種経験状況-----	23
【6】居場所関連等の支援プログラムの利用意向-----	23
第5章 子供の健康と自己肯定感-----	24
【1】子供の健康状態-----	24
(1) 子供の主観的健康状態-----	24
(2) 保護者からみた子供の健康状態-----	25
(3) 子供の医療受診抑制経験とその理由-----	26
【2】自己肯定感-----	27
(1) 自己肯定感-----	27
(2) 心の状態-----	30
第6章 子育てと各種制度・サービス-----	31
【1】子育てにかかる費用-----	31
【2】就学援助-----	32
(1) 就学援助受給状況-----	32
(2) 支給額と実費との差が大きい経費-----	32
【3】子供とのかかわり-----	33
(1) 子供とのかかわり頻度-----	33
【4】子供のしつけ-----	33
【5】子育て上の経験-----	34
【6】制度・サービスの利用-----	36
(1) 子供関連情報の入手方法の現状と意向-----	36
(2) 各種支援制度の利用経験-----	36
(3) 各種経済的支援制度の利用経験-----	36
【7】相談-----	37
(1) 相談相手の有無-----	37
(2) 公的相談機関の利用経験-----	37
第7章 保護者の状況-----	38
【1】回答者-----	38
(1) 婚姻状況-----	38
(2) 健康状態-----	38
(3) 心の状態-----	39
(4) 朝食をとる頻度-----	39
(5) 朝食を一緒にとる人-----	40
(6) 15歳の頃の（主観的）暮らし向き-----	42
(7) 成人するまでの体験-----	43
【2】家族-----	44
(1) 頼れる親族・友人の有無-----	44
(2) 母親のこと-----	44
(3) 父親のこと-----	44

第1章 調査の概要

【1】調査概要

1 調査の目的

本調査は、子供の生活状況の実態や家庭の状況、生活環境についての意識やニーズなどを把握し、今後の子供の貧困対策における、効果的な支援のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査対象者

小学5・6年生とその保護者、中学1～3年生とその保護者

3 調査方法

学校を通じた配付・回収

調査票は「小学生票」「中学生票」（以下「子供票」と表記）及び「小学生保護者」「中学生保護者」（以下「保護者票」と表記）で構成され、学校を通じて配付した。子供票と保護者票はそれぞれ無記名で記入の上、各々個別の封筒に入れ封かんした後、さらに世帯用の封筒に入れたものを、学校を通じて回収した。

4 調査時期

平成29年7月

5 回収状況

		小学5・6年生の家庭	中学1～3年生の家庭
子供	配付数	470人	678人
	有効回答数	391人	572人
	回答率	83.2%	84.4%
保護者	配付数	470人	678人
	有効回答数	385人	551人
	回答率	81.9%	81.3%

【2】生活困難の定義について

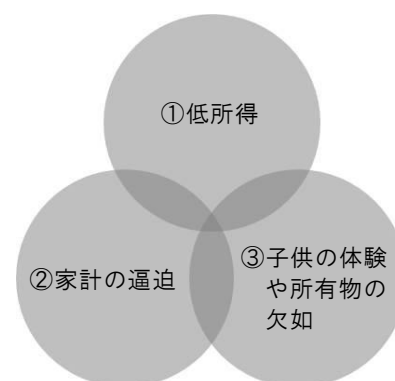
1 生活困難層の定義について

- ・本調査では、基本クロス集計に用いている「生活困難層」等を、以下の3つの要素に基づいて分類している。

①低所得	<p>●等価世帯所得が厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯</p> <p><低所得基準> 世帯所得の中央値 428 万円 ÷ √平均世帯人数 (2.47 人) × 50% = 136.2 万円</p>
②家計の逼迫	<p>●経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上に該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 電話料金 2 電気料金 3 ガス料金 4 水道料金 5 家賃 6 家族が必要とする食料が買えなかった 7 家族が必要とする衣類が買えなかった
③子供の体験や所有物の欠如	<p>●子供の体験や所有物などに関する次の 15 項目のうち、経済的な理由で、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 海水浴に行く 2 博物館・科学館・美術館などに行く 3 キャンプやバーベキューに行く 4 スポーツ観戦や劇場に行く 5 遊園地やテーマパークに行く 6 毎月お小遣いを渡す 7 毎年新しい洋服・靴を買う 8 習いごと（音楽，スポーツ，習字等）に通わせる 9 学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう） 10 お誕生日のお祝いをする 11 1年に1回くらい家族旅行に行く 12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13 子供の年齢に合った本 14 子供用のスポーツ用品・おもちゃ 15 子供が自宅で宿題をすることができる場所

【生活困難層（困窮層・周辺層），非生活困難層】

生活困難層	困窮層＋周辺層
生活困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
非生活困難層	いずれの要素にも該当しない



2 生活困難層の割合とクロス集計について

「低所得」や「家計の逼迫」，「子供の体験や所有物の欠如」のうち2つ以上に該当し，生活困窮層にあると思われる小学5・6年生の家庭は14.7%，いずれか1つに該当するその周辺層まで含めた生活困難層にあたる小学5・6年生の家庭は37.0%，同様に中学1～3年生の家庭は生活困窮層が11.2%，生活困難層が32.6%であった（「生活困難度別クロス集計」）。

生活困難層を世帯の状況別に区分した「生活困難層世帯タイプ別」では，小学5・6年生のひとり親家庭の23.1%が生活困窮層，中学1～3年生のひとり親家庭の27.3%が生活困窮層である。

【生活困難度別クロス集計】

区 分	小学5・6年生	中学1～3年生
生活困難層	37.0%	32.6%
生活困窮層	14.7%	11.2%
周辺層	22.3%	21.4%
非生活困難層	63.0%	67.4%

【生活困難層世帯タイプ別クロス集計】

区 分	生活困難層				非生活困難層	
	生活困窮層		周辺層		小学5・6年生	中学1～3年生
	小学5・6年生	中学1～3年生	小学5・6年生	中学1～3年生		
ひとり親の家庭	23.1%	27.3%	26.9%	38.2%	50.0%	34.5%
ふたり親の家庭	13.9%	8.8%	21.3%	17.9%	64.8%	73.3%

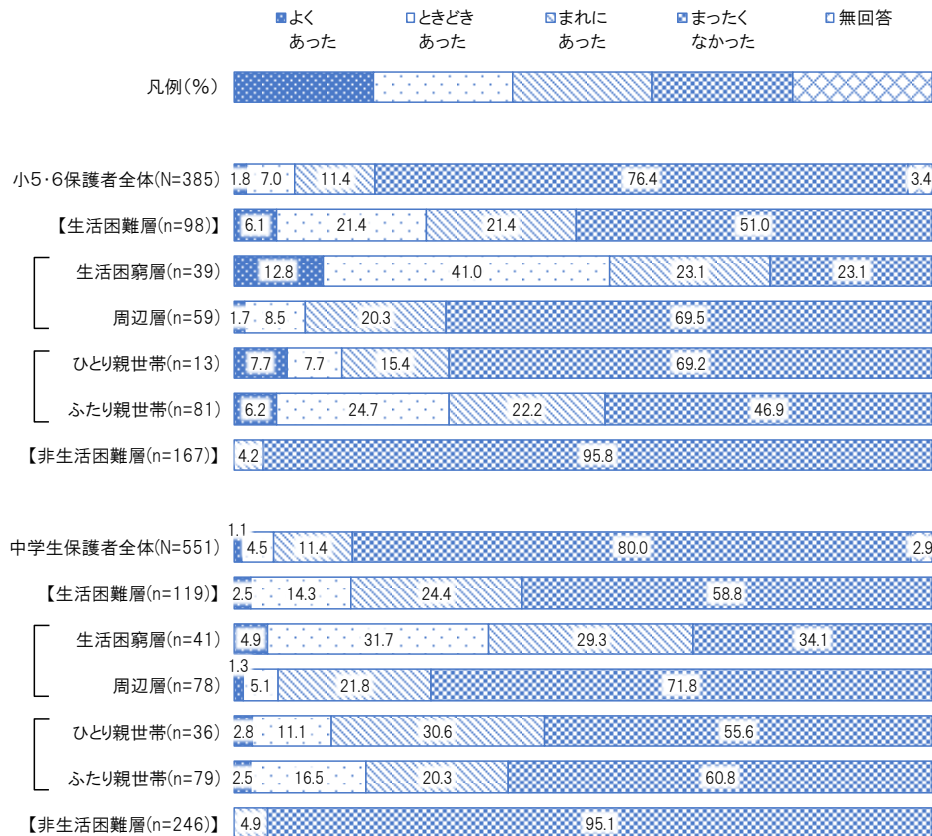
第2章 生活困窮の状況

【1】家計の状況（P11）※

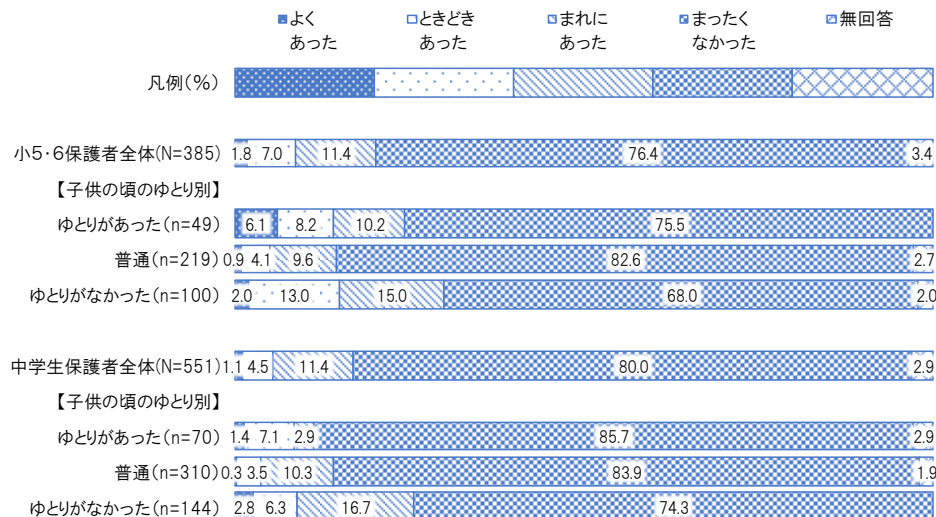
（1）食料が買えなかった経験（P11）

食料が買えなかった経験については、小学5・6年保護者全体では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計が20.2%，中学生保護者全体では17.0%となっている。

生活困難度別にみた『あった（合計）』割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で76.9%，中学生保護者で65.9%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。



子供の頃のゆとり別でみると、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに、ゆとりがなかった層で『あった（合計）』割合が、他の層に比べて高くなっている。

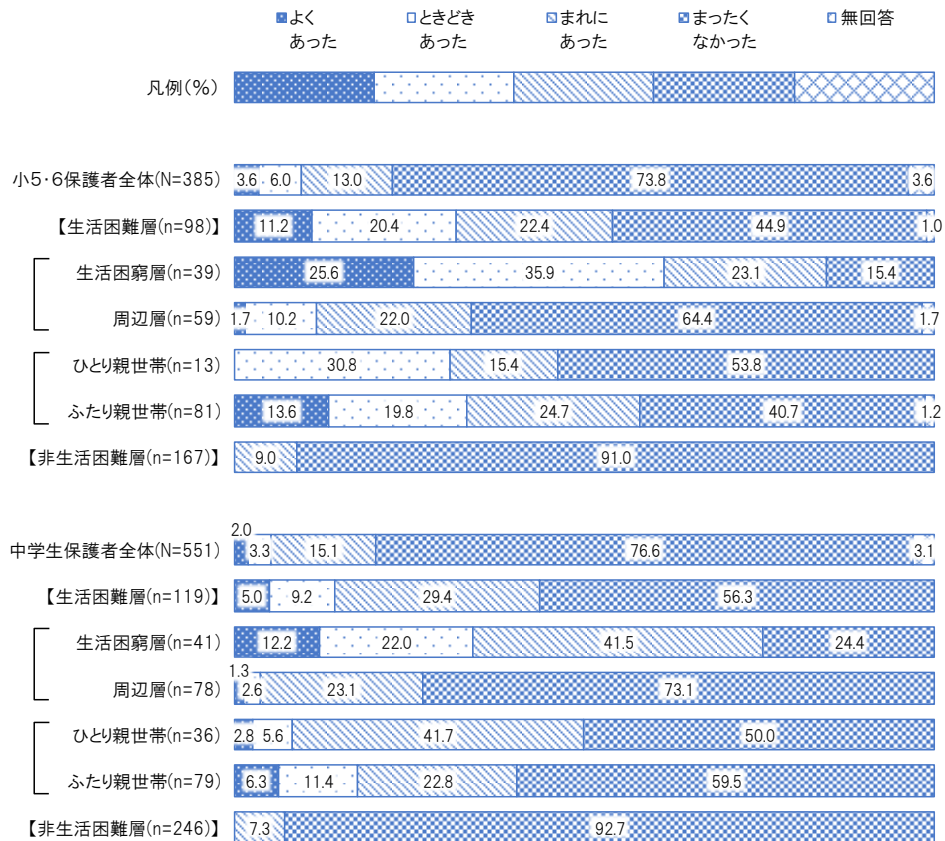


※各項目に記載している(POO)は、報告書本編の該当ページを示す(以下同様)。

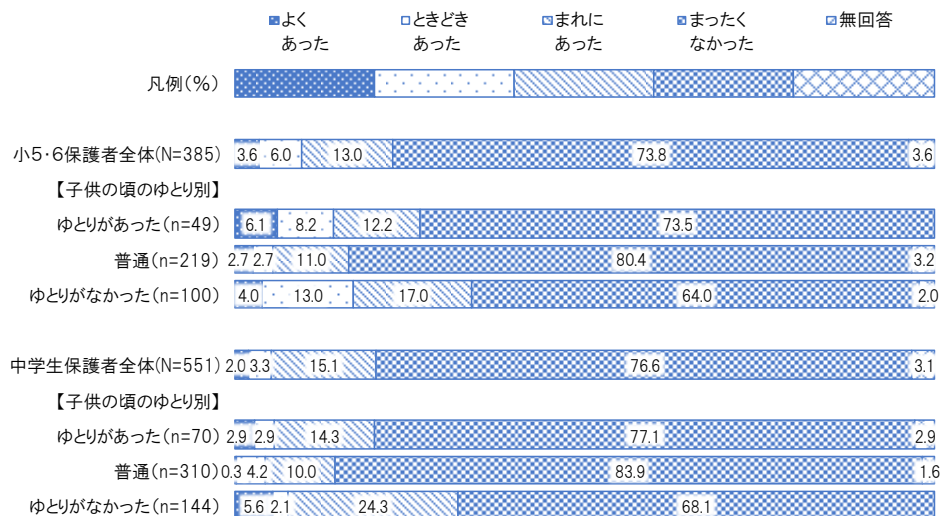
(2) 衣類が買えなかった経験 (P13)

衣類が買えなかった経験については、小学5・6年保護者全体では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計が22.6%、中学生保護者全体では20.4%となっている。

生活困難度別にみた『あった(合計)』割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で84.6%、中学生保護者で75.7%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。



子供の頃のゆとり別でみると、ゆとりがなかった層で小学5・6年保護者では「ときどきあった」、中学生保護者では「よくあった」の割合が、他の層に比べてそれぞれ高くなっている。



(3) 公共料金等の滞納経験 (P15)

公共料金等の滞納経験については、「あった」の割合が高い順に「その他の債務」「電話料金」「電気料金」「水道料金」などがあげられる。非生活困難層では滞納経験はほとんどみられないが、生活困窮層では滞納経験が3～4割と多く、特に「電話料金」で高くなっている。

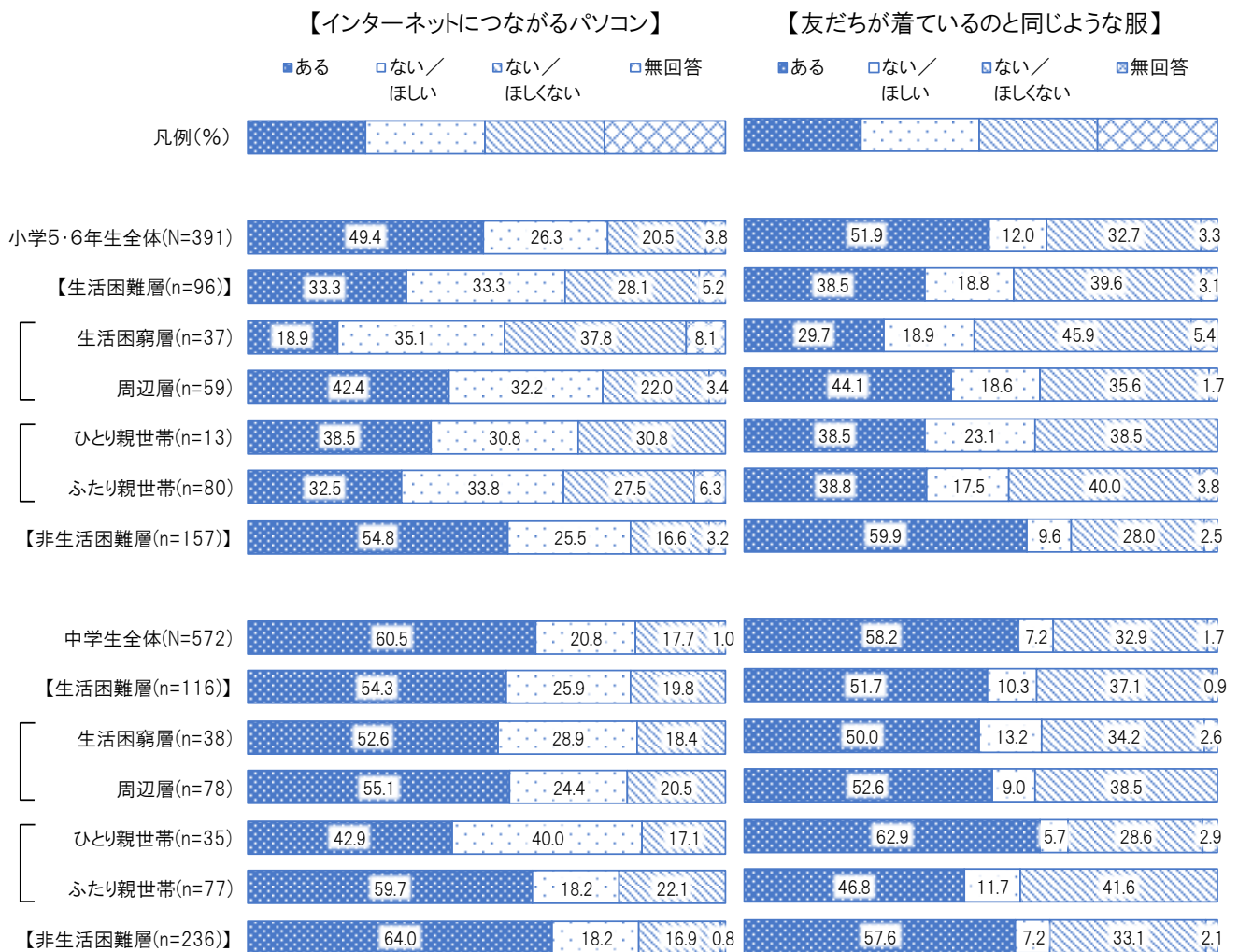
(4) 物品等の所有状況 (P23)

物品等の所有状況については、「洗濯機」「炊飯器」などの家電製品は生活困難度による差がほとんどみられないが、生活困窮層では「新聞の定期購読(ネット含む)」「インターネットにつながるパソコン」「急な出費のための貯金(5万円以上)」「子供の年齢に合った本」などの所有率が低くなっている。

【2】子供の生活水準 (P29)

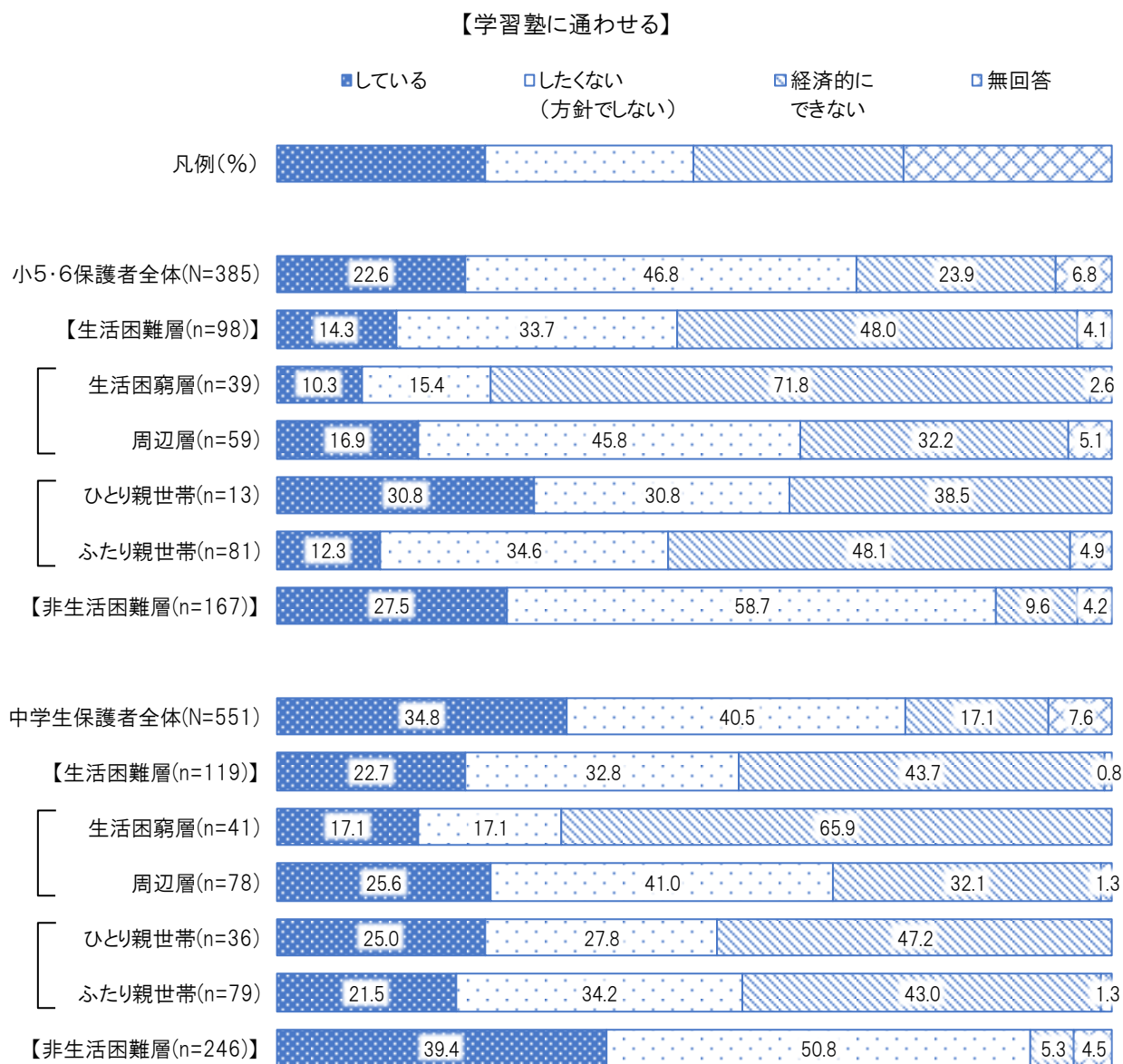
(1) 所有物の状況 (P29)

所有物の状況について子供に尋ねたところ、「ゲーム機」「携帯電話、スマートフォン」は生活困難度による大きな差はみられないが、それ以外の項目では生活困難層の所有率が低くなっており、特に「インターネットにつながるパソコン」「友だちが着ているのと同じような服」などで差が大きくなっている。



(2) 子供への支出 (P45)

保護者に子供への支出について尋ねたところ、「誕生日のお祝い」「保護者の学校行事への参加」などは生活困難度による大きな差はみられないが、「学習塾に通わせる」「1年に1回くらい家族旅行に行く」では、生活困窮層の6～8割程度が「経済的にできない」と回答している。



(3) 子供の体験 (P55)

子供の体験については、すべての項目において、生活困難層は非生活困難層に比べ「体験する」と回答した割合が低く、特に「遊園地やテーマパークに行く」「スポーツ観戦や劇場に行く」では、「経済的な理由でない」の割合が高くなっている。

【3】子供の食と栄養（P61）

（1）朝食の摂取状況（P61）

朝食の摂取状況については、「いつも食べる（週に5日）」「食べるほうが多い（週に3，4日）」の合計は、小学5・6年生全体では94.6%，中学生全体では92.6%となっている。一方、「食べないほうが多い（週に1，2日）」「いつも食べない」の合計は、小学5・6年生全体では2.6%，中学生全体では4.4%となっている。

生活困難度別にみると、小学5・6年生の生活困窮層で「いつも食べる（週に5日）」の割合が他の層に比べて低くなっている。

（2）栄養群の摂取状況（P62）

栄養群の摂取状況については、生活困難層は非生活困難層に比べ「野菜」「くだもの」「肉や魚」を「毎日食べる」割合がやや低くなっている。一方、生活困難層では「カップめん・インスタントめん」「コンビニのおにぎり・お弁当」を『1週間に2～3日以上』（「毎日食べる」「1週間に4～5日」「1週間に2～3日」の合計）と回答した割合が高くなっている。

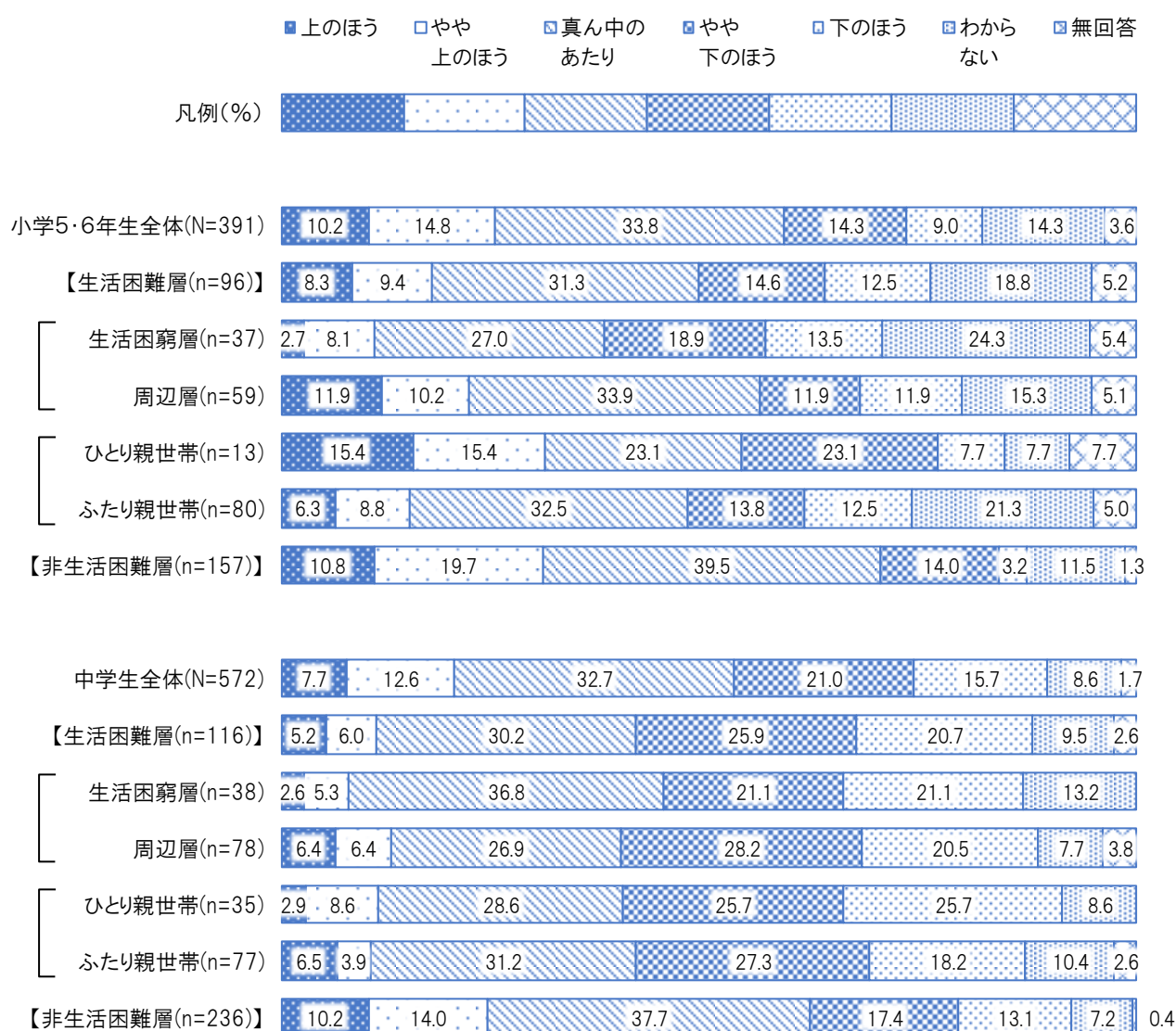
第3章 子供の学び

【1】学校の成績（P71）

成績の主観的評価については、小学5・6年生全体では、「上のほう」「やや上のほう」の合計が25.0%、中学生全体では20.3%となっている。一方、「やや下のほう」「下のほう」の合計は、小学5・6年生全体では23.3%、中学生全体では36.7%となっている。

生活困難度別にみた『下のほう（合計）』の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で32.4%、周辺層で23.8%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で『上のほう（合計）』の割合が高い一方、「やや下のほう」の割合もふたり親世帯に比べて高くなっている。

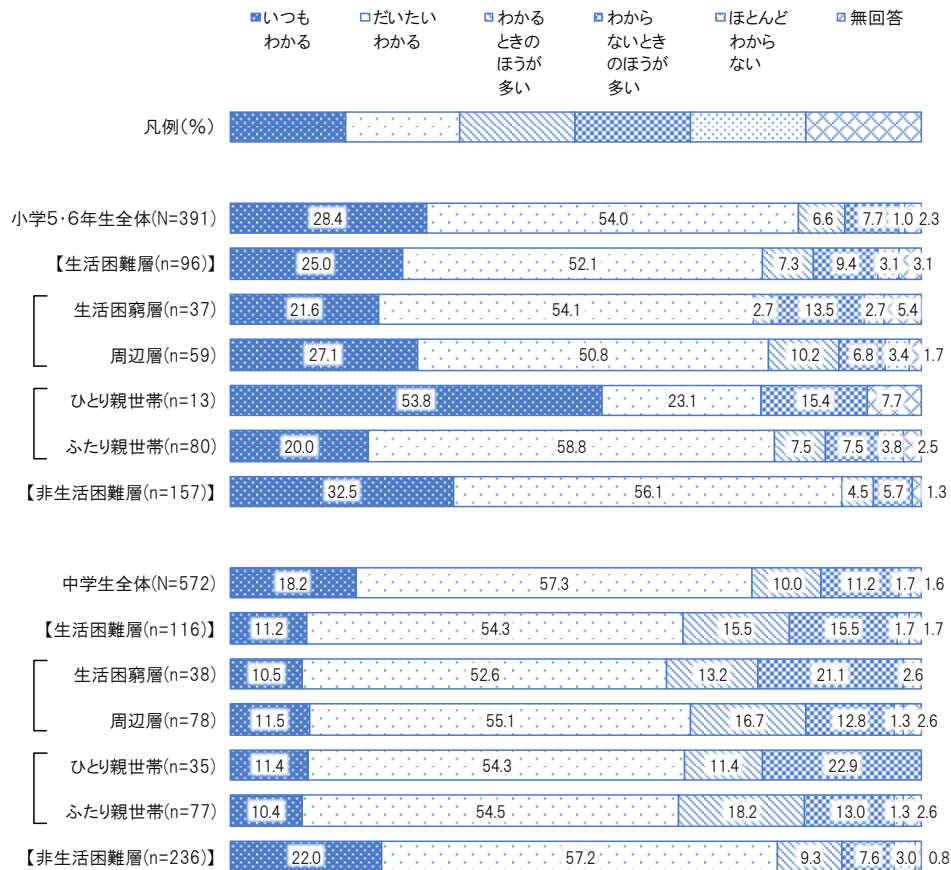


【2】授業の理解や学習の状況（P75）

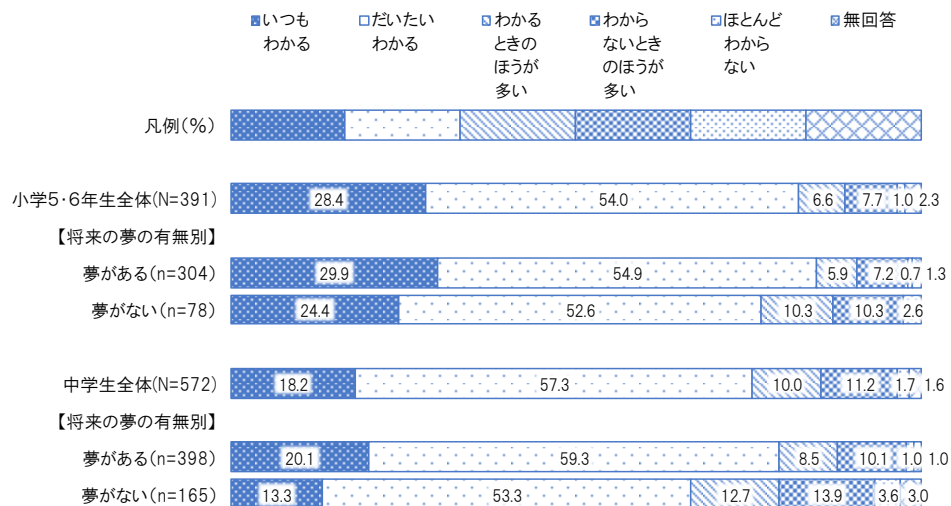
（1）授業の理解度（P75）

授業の理解度については、小学5・6年生全体では「いつもわかる」は28.4%、中学生全体では18.2%となっている。一方、「わからないときのほうが多い」「ほとんどわからない」の合計は、小学5・6年生全体では8.7%、中学生全体では12.9%となっている。

生活困難度別にみた『わからない(合計)』の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%、周辺層で10.2%、中学生の生活困窮層で23.7%、周辺層で14.1%となっており、生活困窮層で高くなっている。

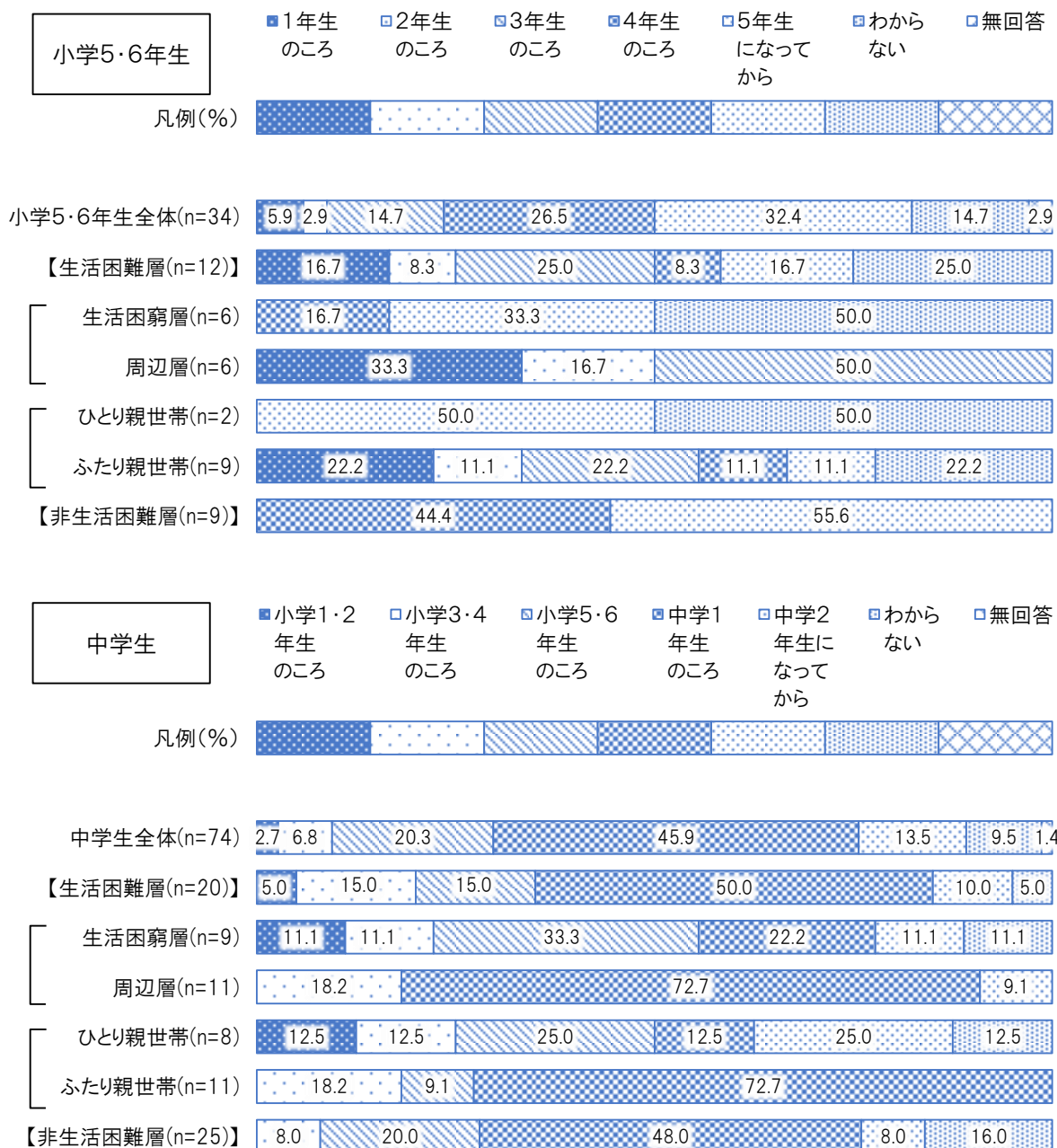


将来の夢の有無別でみると、小学5・6年生、中学生ともに夢がある層では、夢がない層に比べ「いつもわかる」の割合が高くなっている。



(2) 授業がわからなくなった時期 (P77)

授業がわからなくなった時期については、小学5・6年生全体では「4年生のころ」(26.5%)、「5年生になってから」(32.4%)が比較的高く、中学生全体では「中学1年生のころ」の割合が45.9%と最も高くなっている。



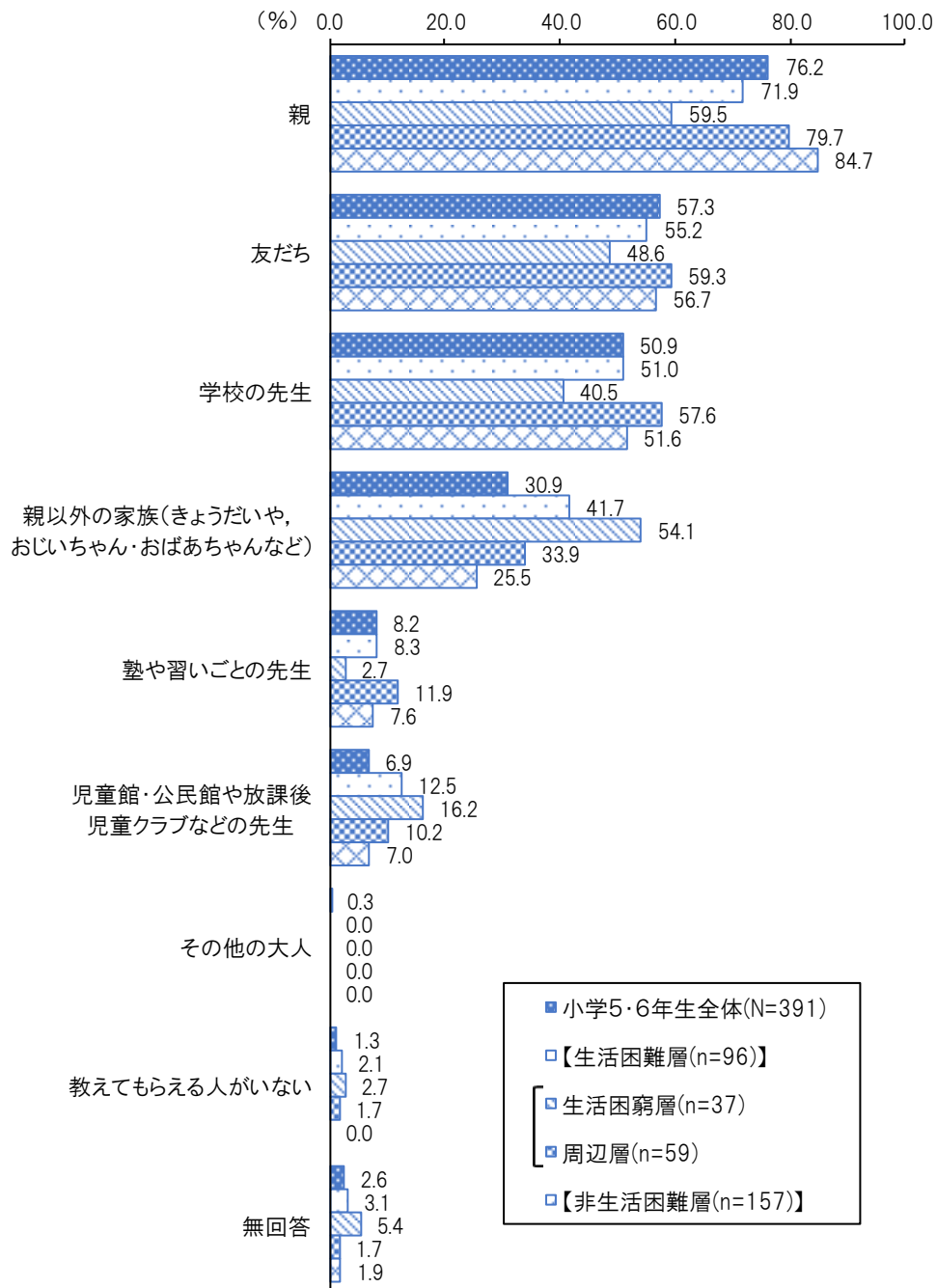
注:生活困窮度別,生活困難層世帯タイプ別については,件数(n)が少ないため参考値として参照

【3】学校外での学習・勉強の状況（P91）

（1）勉強を教えてくれる人（P91）

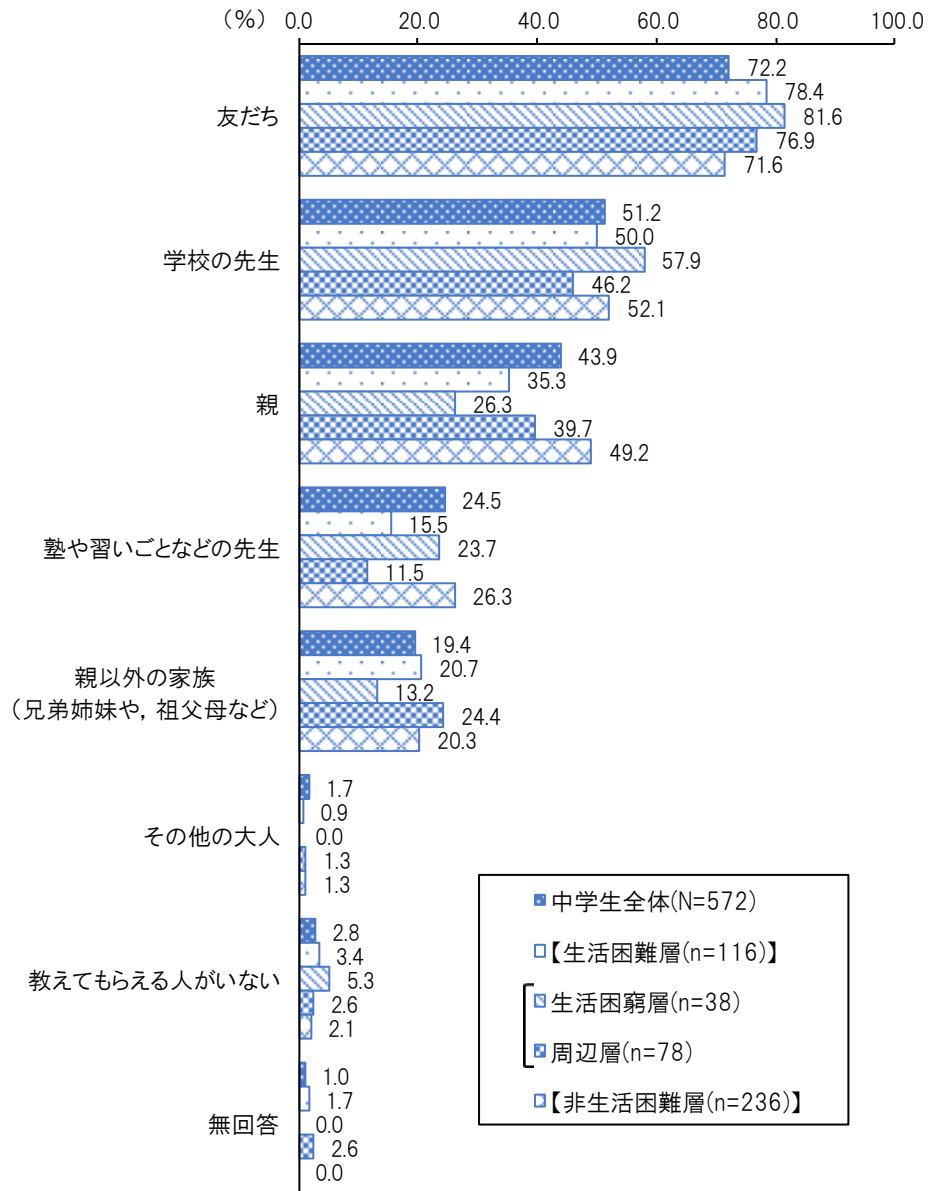
勉強を教えてくれる人については、小学5・6年生全体で「親」の割合が76.2%と最も高く、次いで「友だち」（57.3%）、「学校の先生」（50.9%）の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層は「親」「友だち」「学校の先生」などの割合が他の層に比べて低くなっている。



中学生全体で「友だち」の割合が72.2%と最も高く、次いで「学校の先生」(51.2%)、「親」(43.9%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「親」の割合が他の層を大きく下回っている。



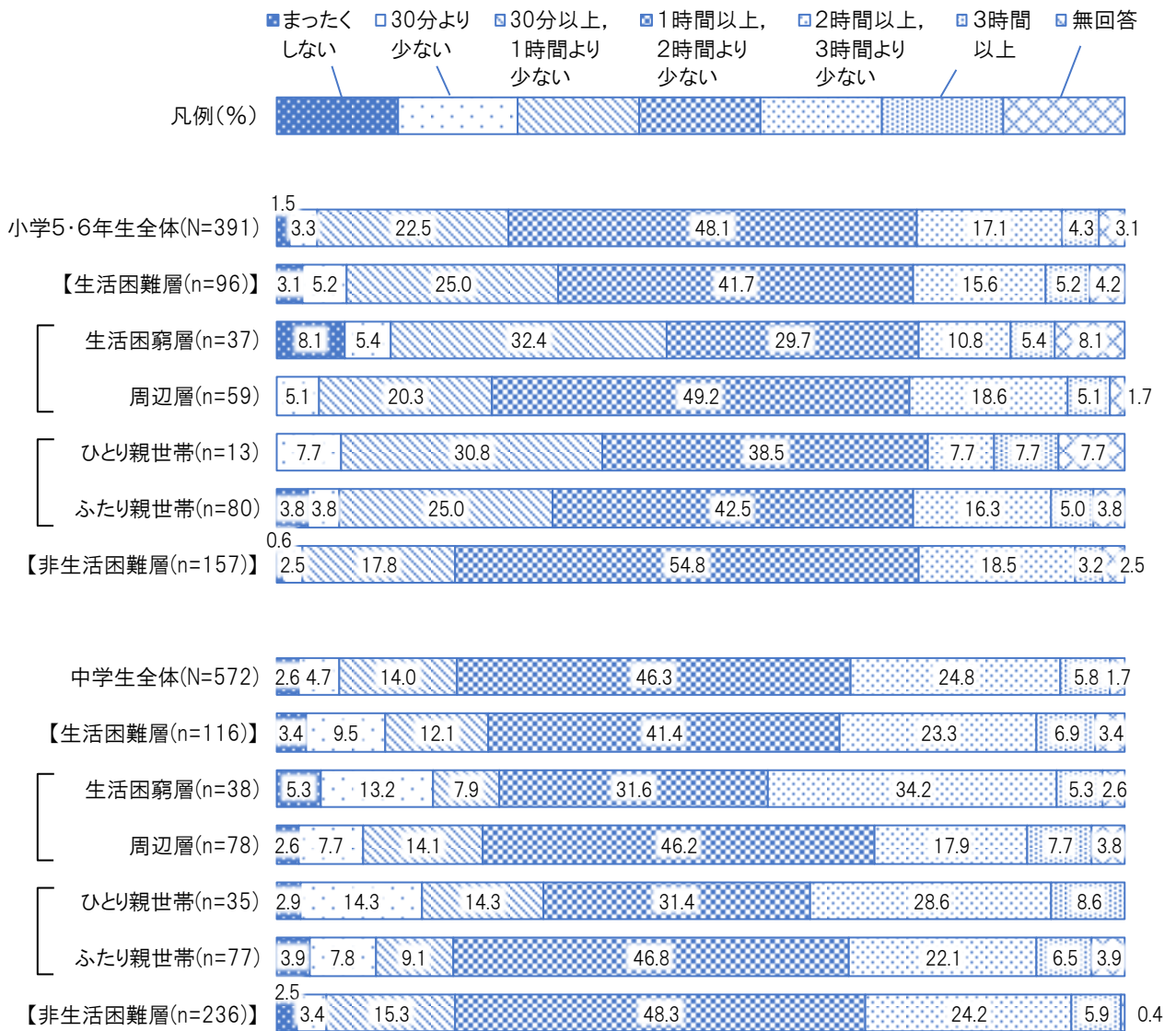
(2) 学校外での勉強時間及び学習塾・家庭教師の頻度 (P93)

学校外での勉強時間については、小学5・6年生全体では、「まったくしない」「30分より少ない」の合計が4.8%、中学生全体では7.3%となっている。一方、「2時間以上、3時間より少ない」「3時間以上」の合計は、小学5・6年生全体では21.4%、中学生全体では30.6%となっている。

生活困難度別にみた「まったくしない」「30分より少ない」の合計は、小学5・6年生の生活困窮層で13.5%、中学生で18.5%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

また、学習塾・家庭教師の頻度については、生活困窮層は非生活困窮層に比べ『週1回以上通って(来てもらって)いる』(「週に1日」～「週に6日」)の割合が低くなっている。

【学校外の勉強時間】



【4】学習環境（P100）

「自分だけの本」「インターネットにつながるパソコン」「自宅で宿題をすることができる場所」などの学習環境については、小学5・6年生の生活困窮層で「ある」の割合が低くなっており、特に「インターネットにつながるパソコン」の割合が低くなっている。また、中学生の生活困窮層では、「自分だけの本」で「ある」の割合が低くなっている。

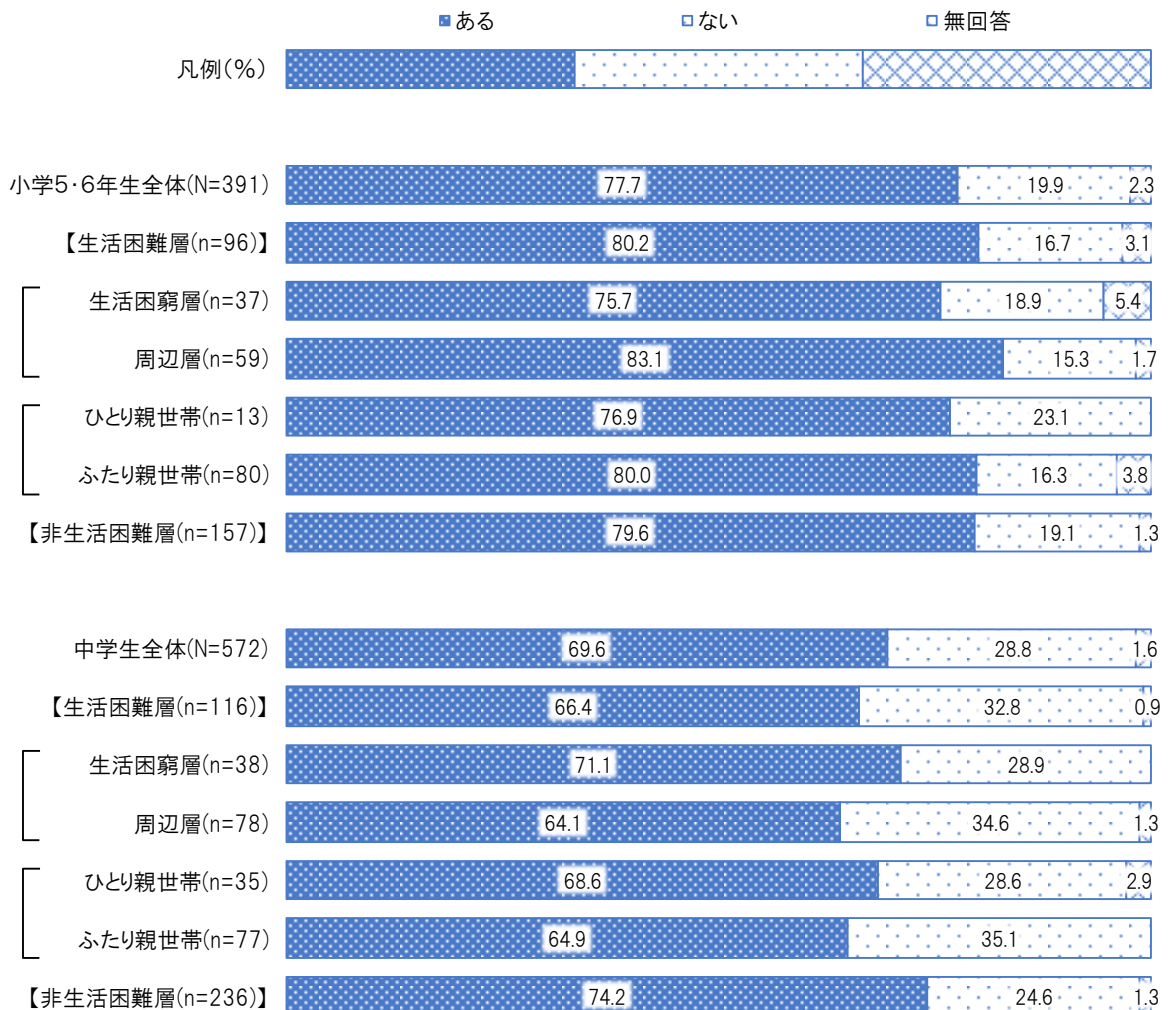
【5】将来の夢（P104）

（1）夢の有無と夢がない理由（P104）

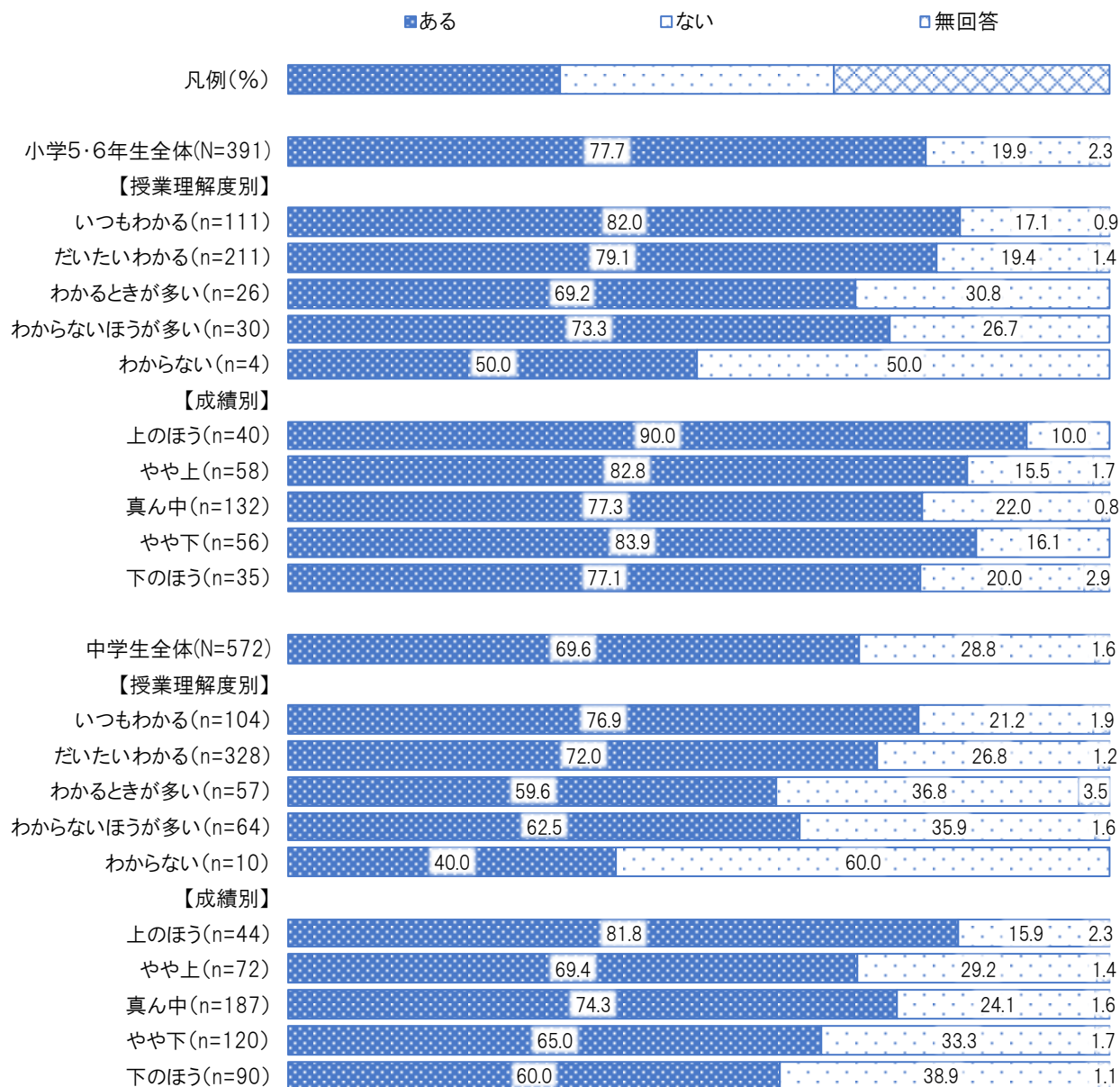
将来の夢やつきたい職業については、小学5・6年生全体では「ある」が77.7%，中学生全体では69.6%となっている。一方、「ない」は、小学5・6年生全体では19.9%，中学生全体では28.8%となっている。

生活困難度別にみた「ない」の割合は、中学生の生活困窮層で28.9%，周辺層では34.6%となっており、周辺層で高くなっている。

夢やつきたい職業がない理由については、「具体的に、何も思いうかばないから」が小学5・6年生全体で64.1%，中学生全体で60.0%となっており、「夢をかなえるのはむずかしいと思うから」が小学5・6年生全体で10.3%，中学生全体で12.7%となっている。



授業理解度別でみると、小学5・6年生、中学生ともに、おおむね理解度が高い層ほど「ある」の割合が高く、成績別では、おおむね成績が上の層ほど「ある」の割合が高い傾向にある。

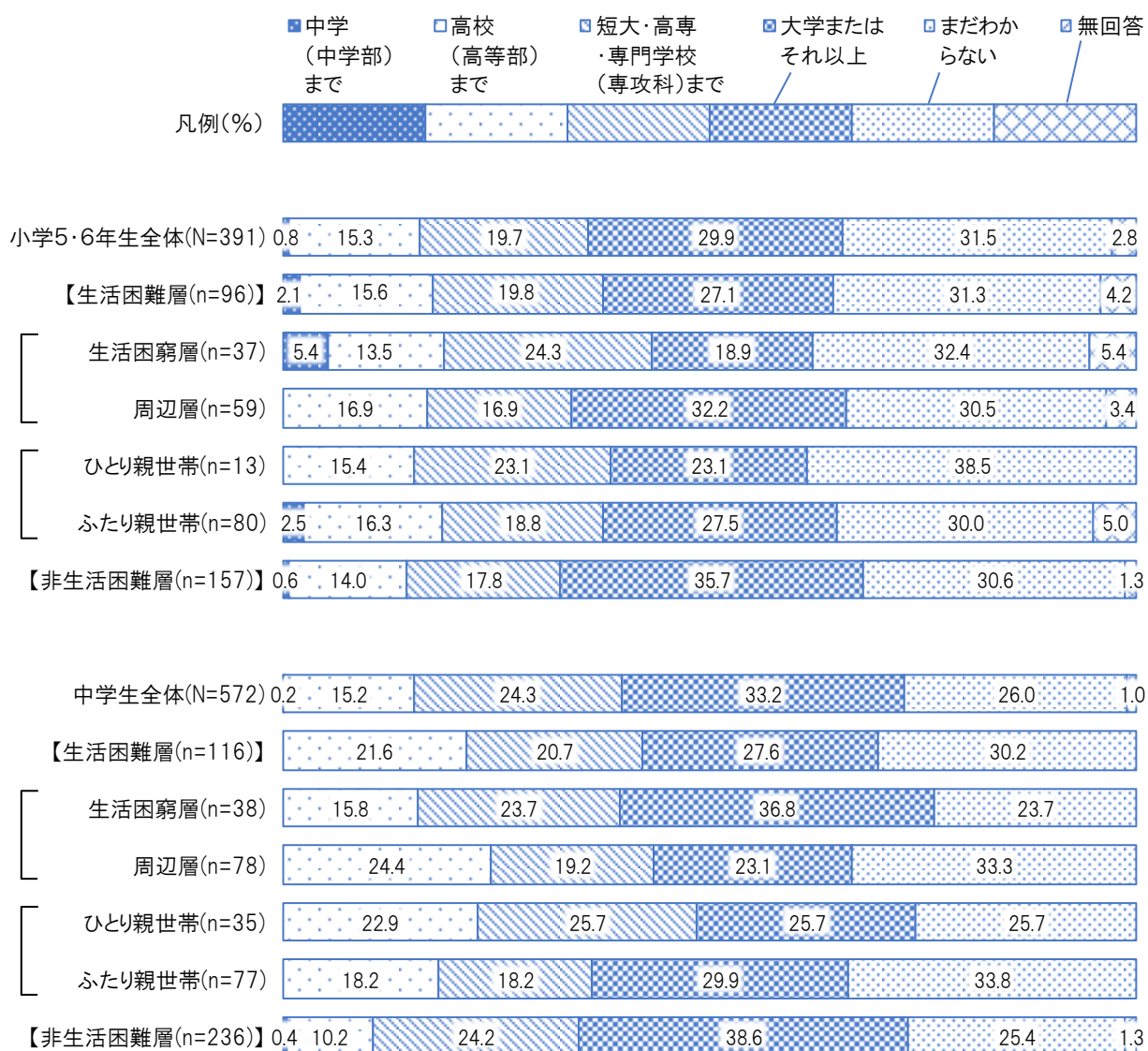


注：小学5・6年生の「わからない」については、件数(n)が少ないため参考値として参照

(2) 将来の進学希望 (P107)

将来の進学希望については、「大学またはそれ以上」が小学5・6年生全体で29.9%、中学生全体で33.2%、「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」が小学5・6年生全体で19.7%、中学生全体で24.3%、「高校(高等部)まで」が小学5・6年生全体で15.3%、中学生全体で15.2%となっている。

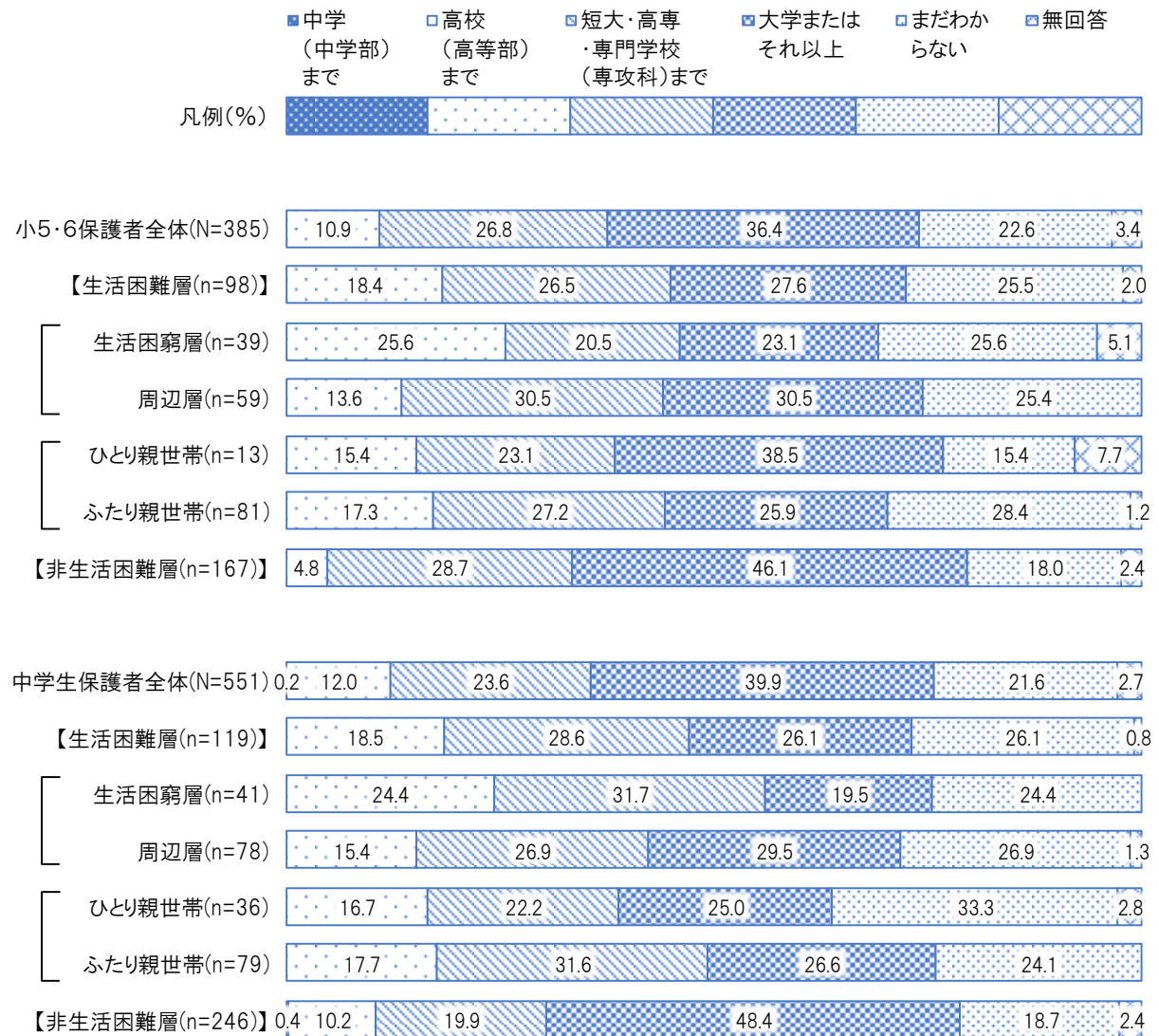
生活困難度別にみた「大学またはそれ以上」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で32.2%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。一方、中学生では生活困窮層で36.8%、周辺層で23.1%となっており、生活困窮層で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっている。



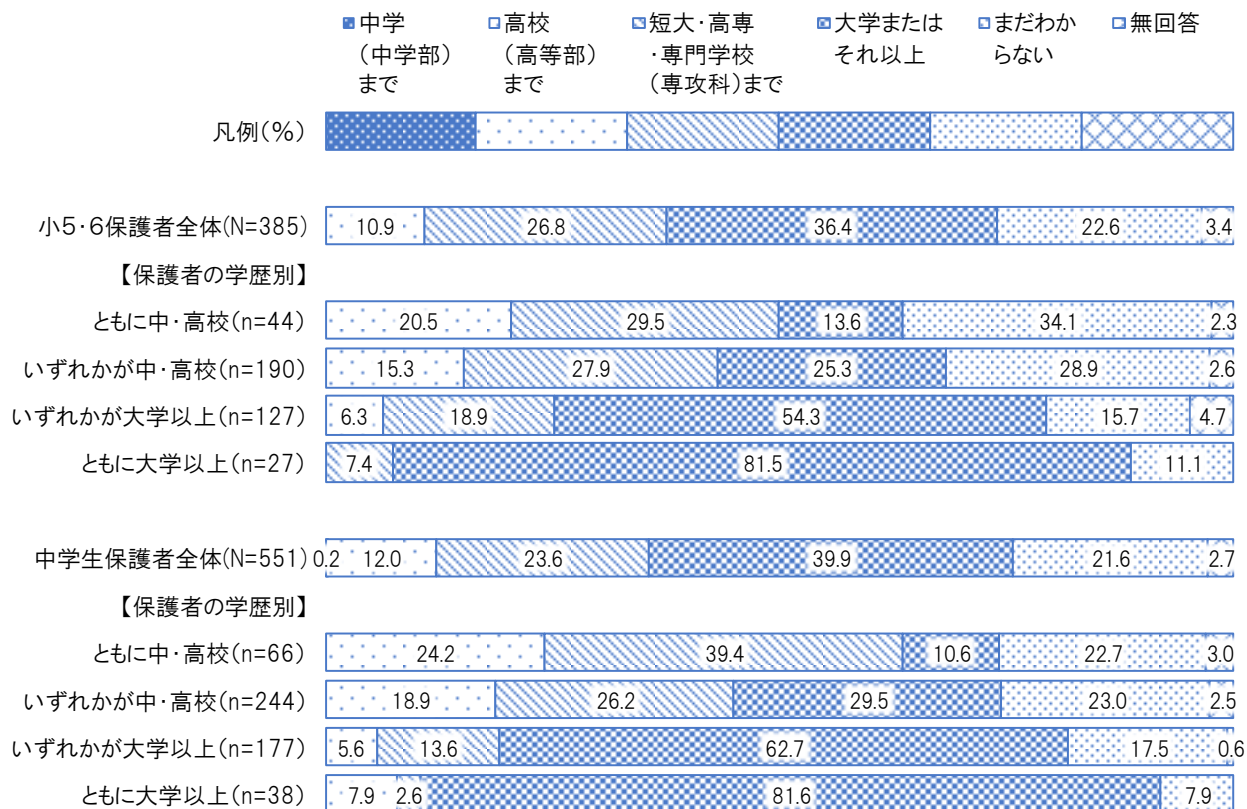
【6】子供の教育（P112）

子供に受けさせたい教育レベルについては、「大学またはそれ以上」が小学5・6年保護者全体で36.4%，中学生保護者全体で39.9%，「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が小学5・6年保護者全体で26.8%，中学生保護者全体で23.6%，「高校（高等部）まで」が小学5・6年保護者全体で10.9%，中学生保護者全体で12.0%となっている。

生活困難度別にみた「高校（高等部）まで」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で25.6%，中学生保護者で24.4%となっており、生活困難度が高い層ほど高くなっている。



保護者の学歴別でみると、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに「ともに中・高校」「いずれかが中・高校」では他の層に比べ「高校（高等部）まで」「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が高く、「いずれかが大学以上」「ともに大学以上」では「大学またはそれ以上」の割合が高い傾向にある。



第4章 子供の日常生活

【1】家族や友だち（P123）

（1）家族の接し方（P123）

家族の子供への接し方については、一緒に楽しい時間を過ごしてくれるか、自分が喜ぶことをしてくれるかなどを尋ねたところ、小学5・6年生、中学生ともに、生活困難層は非生活困難層に比べ『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）の割合が高くなっている。

（2）友だちとの関係（P130）

友だちとの関係については、友だちと一緒にたくさん遊んでいると思うかでは、小学5・6年生の生活困窮層で「とてもそう思う」の割合が低くなっており、友だちに好かれていると思うかでは、中学生の生活困窮層で「とてもそう思う」の割合が他の層を大きく下回っている。

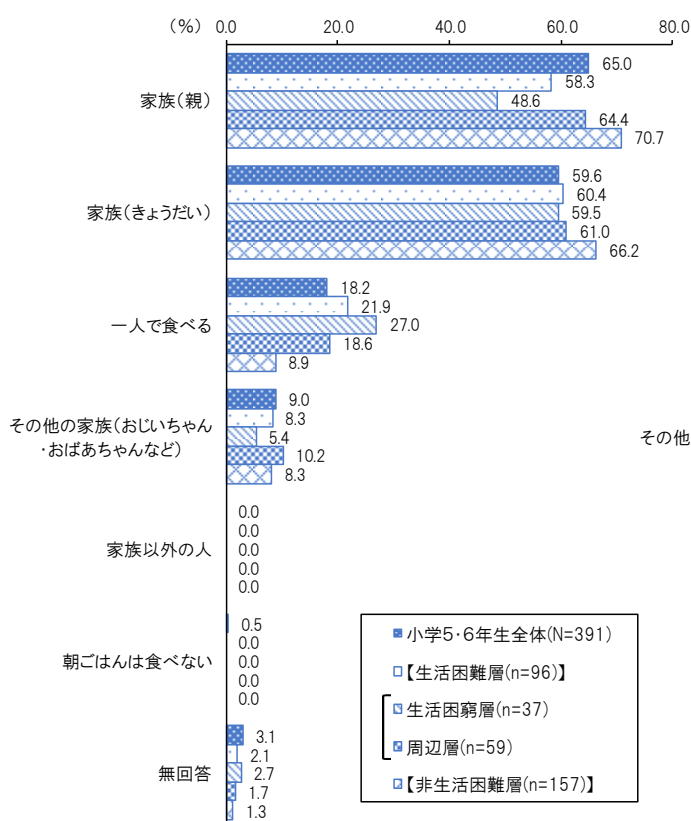
【2】平日の食事（P135）

朝食を一緒にとる人については、「家族（親）」が6割程度を占めており、次いで「家族（兄弟姉妹）」、「一人で食べる」の順となっている。

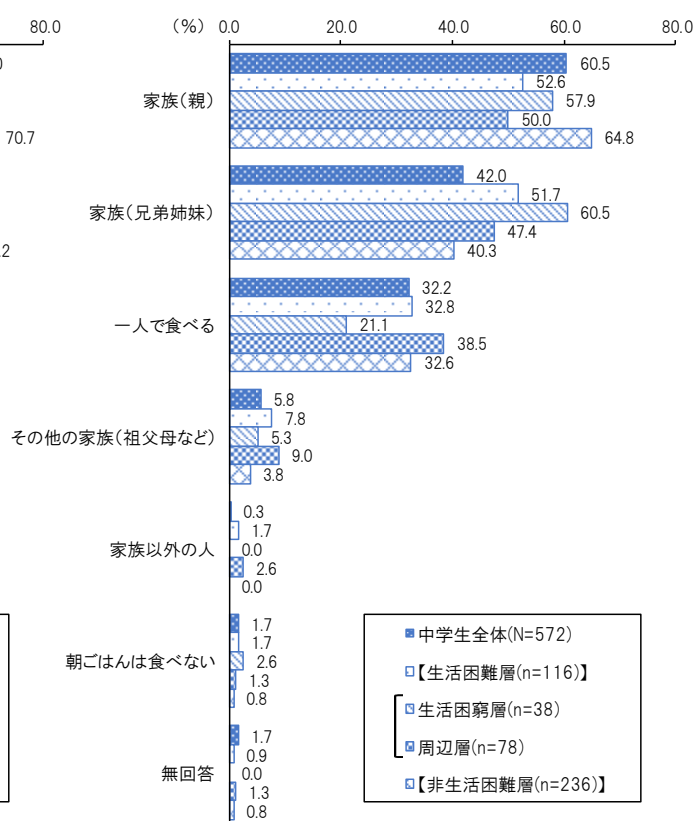
生活困難度別にみると、小学5・6年生の生活困窮層では「家族（親）」の割合が低く、「一人で食べる」の割合が高くなっており、中学生の生活困窮層では「家族（兄弟姉妹）」の割合が高く、「一人で食べる」の割合が低くなっている。

一方、夕食を一緒にとる人については、生活困難度による大きな差はみられず、「家族（親）」が約9割を占めている。

【朝食を一緒にとる人(小学5・6年生)】



【朝食を一緒にとる人(中学生)】



【3】平日の放課後の過ごし方（P140）

平日の放課後を過ごす場所について、小学5・6年生全体では「毎日」「週に3～4日」を合計した割合でみると、「自分の家」が7割以上を占め最も高くなっているが、小学5・6年生の生活困窮層では「そこでは全く過ごさない」の割合が非生活困難層に比べて高くなっている。

中学生全体では、「学校（部活動など）」が約8割を占め最も高く、次いで「自分の家」が半数近くを占めている。

【4】活動の状況（P158）

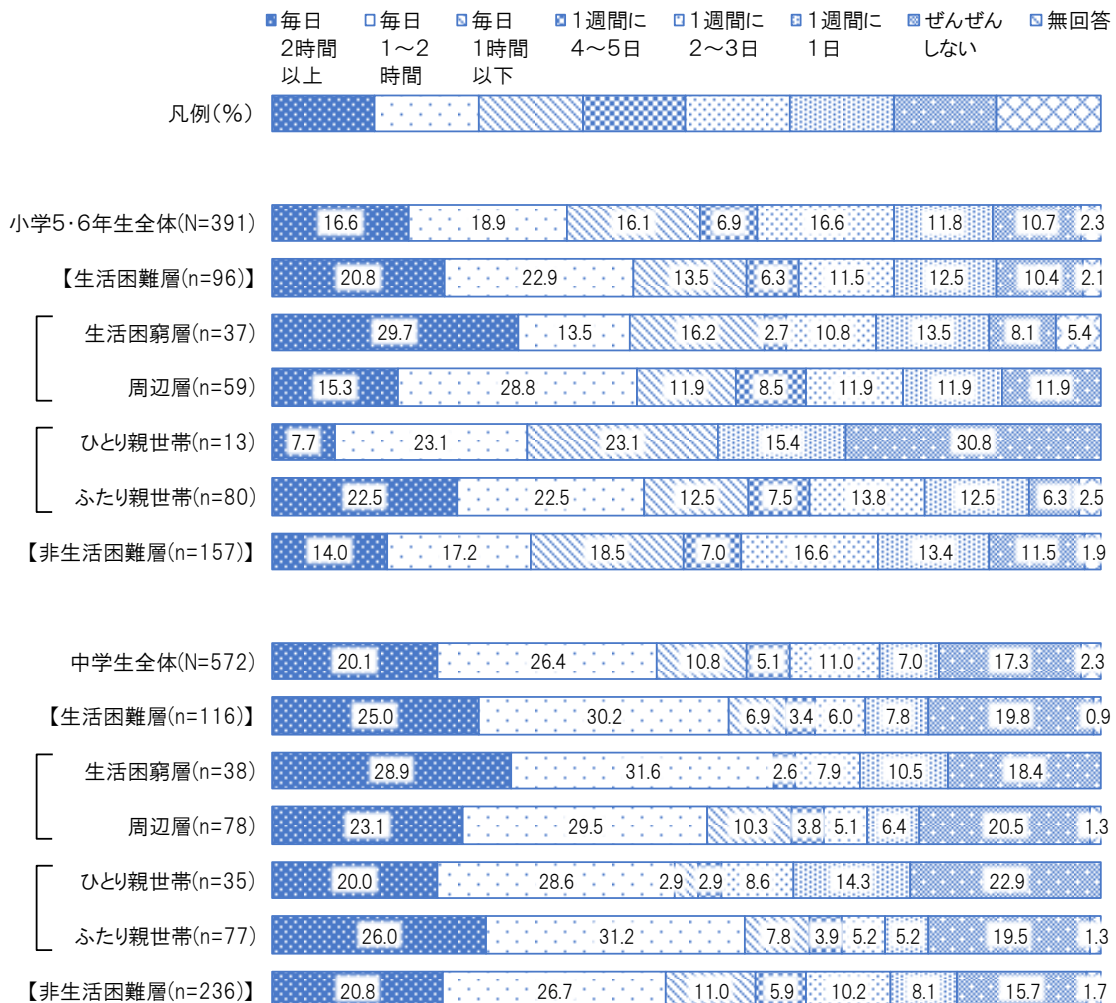
（1）活動の状況（P158）

「ゲーム機で遊ぶ」「テレビを見る」頻度については、生活困難層は非生活困難層に比べ「毎日2時間以上」の割合が高くなっている。

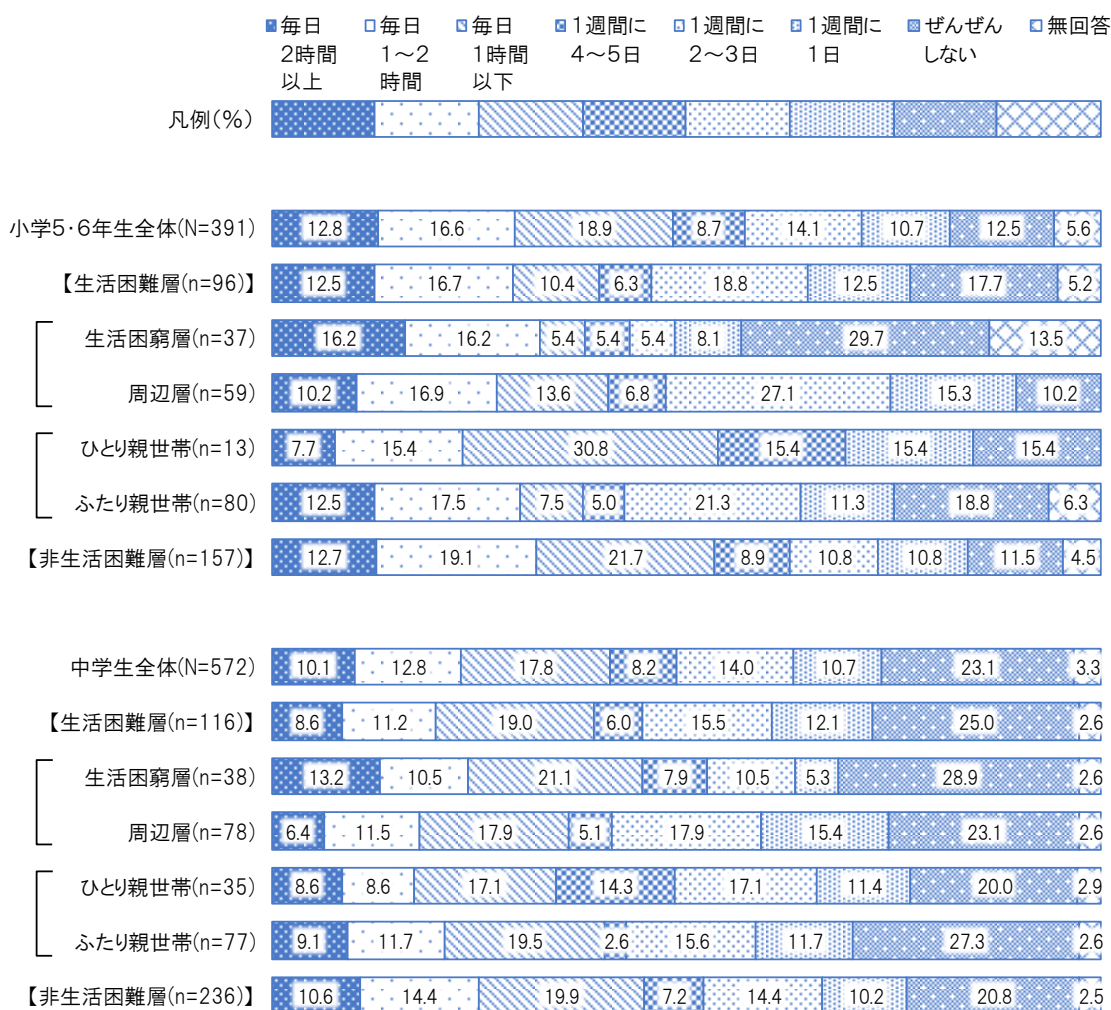
「インターネットを見る」ことについては、小学5・6年生の生活困窮層は「ぜんぜんしない」の割合が半数近くを占めているが、中学生の生活困窮層では「毎日2時間以上」の割合が23.7%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

「室内でのほかの活動」について、小学5・6年生の生活困窮層で「ぜんぜんしない」の割合が29.7%となっており、非生活困難層を大きく上回っている。

【ゲーム機で遊ぶ】



【室内でのほかの活動】



(2) 運動の状況 (P167)

運動の状況については、「ほとんどしない・全くしない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で高くなっており、生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにひとり親世帯で「ほぼ毎日」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。

(3) 読書の状況 (P168)

読書の状況については、「読まなかった」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で16.2%、周辺層で6.8%となっており、生活困窮層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生、中学生ともにふたり親世帯で「読まなかった」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。

(4) 就寝・起床時刻 (P178)

就寝時刻について「決まっている」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で10.8%、周辺層で27.1%、中学生では生活困窮層で10.5%、周辺層で17.9%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

起床時刻については、『決まっていない』（「あまり決まっていない」「まったく決まっていない」の合計）の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で18.9%、周辺層で10.2%となっており、生活困窮層で高くなっている。

(5) 歯磨き・入浴の頻度 (P180)

歯磨きについて「毎日」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で86.5%、周辺層で91.5%、中学生では、生活困窮層で86.8%、周辺層で97.4%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

入浴については、生活困難度による大きな差はみられない。

【5】各種経験状況 (P182)

「学校に行きたくないと思った」「夜遅くまで子供だけで過ごした」などの各種経験状況については、生活困難層は非生活困難層に比べ『あった』(「よくあった」「時々あった」の合計)の割合が高く、特に「学校に行きたくないと思った」では、「よくあった」の割合が小学5・6年生の生活困窮層で21.6%、周辺層で11.9%となっており、生活困窮層で高くなっている。

【6】居場所関連等の支援プログラムの利用意向 (P186)

支援プログラムの利用意向については、「使ってみたい」場所として「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」「(家以外で)休日にいることができる場所」などの割合が高くなっている。特に、「(家以外で)休日にいることができる場所」「家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べるすることができる場所」では、中学生の生活困窮層で「使ってみたい」の割合が高くなっている。

第5章 子供の健康と自己肯定感

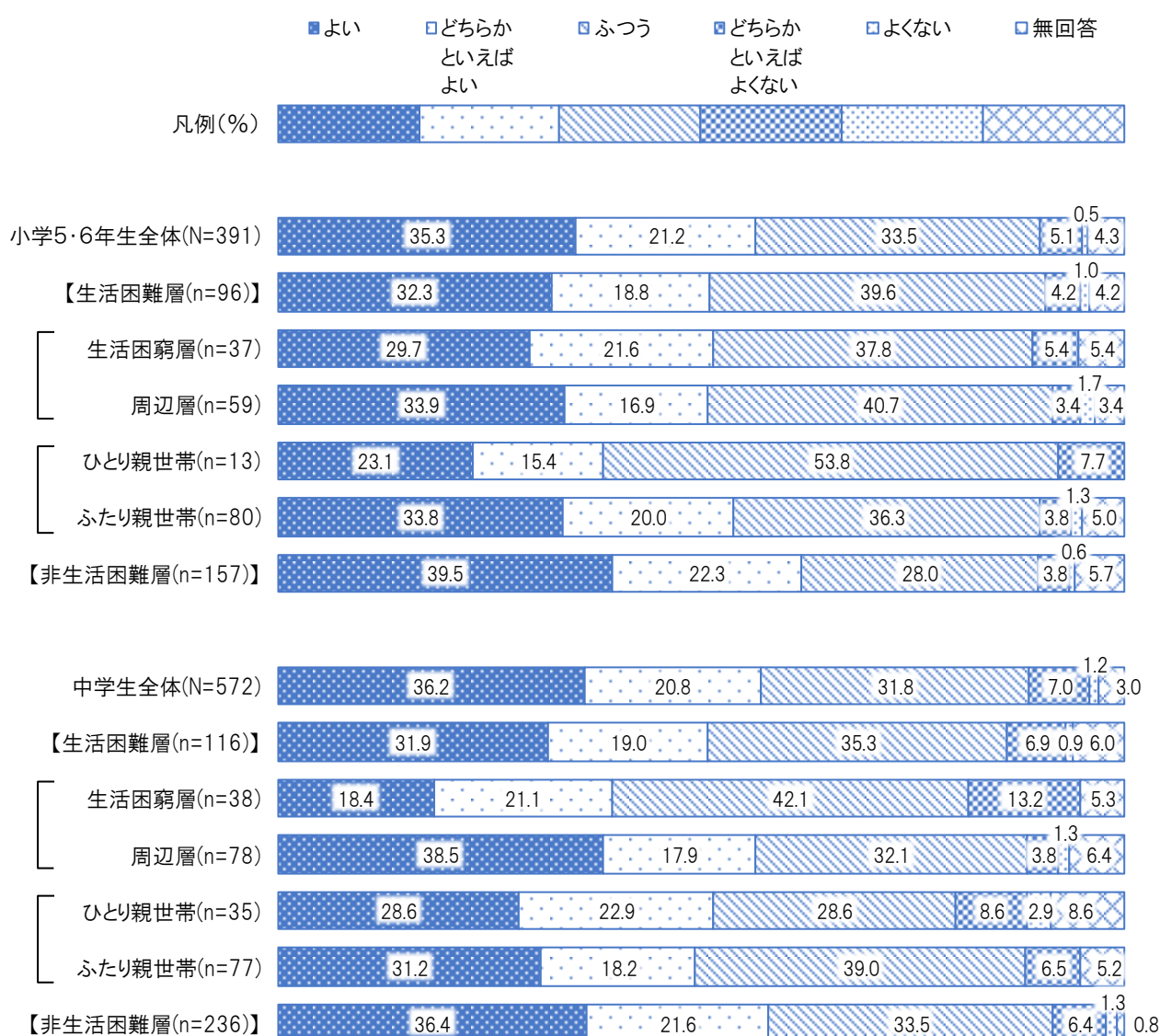
【1】子供の健康状態（P192）

（1）子供の主観的健康状態（P192）

子供の主観的健康状態については、小学5・6年生全体では「よい」が35.3%、中学生全体では36.2%となっている。一方、「どちらかといえばよくない」「よくない」の合計は、小学5・6年生全体では5.6%、中学生全体では8.2%となっている。

生活困難度別にみた「よい」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で29.7%、中学生で18.4%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「よい」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。

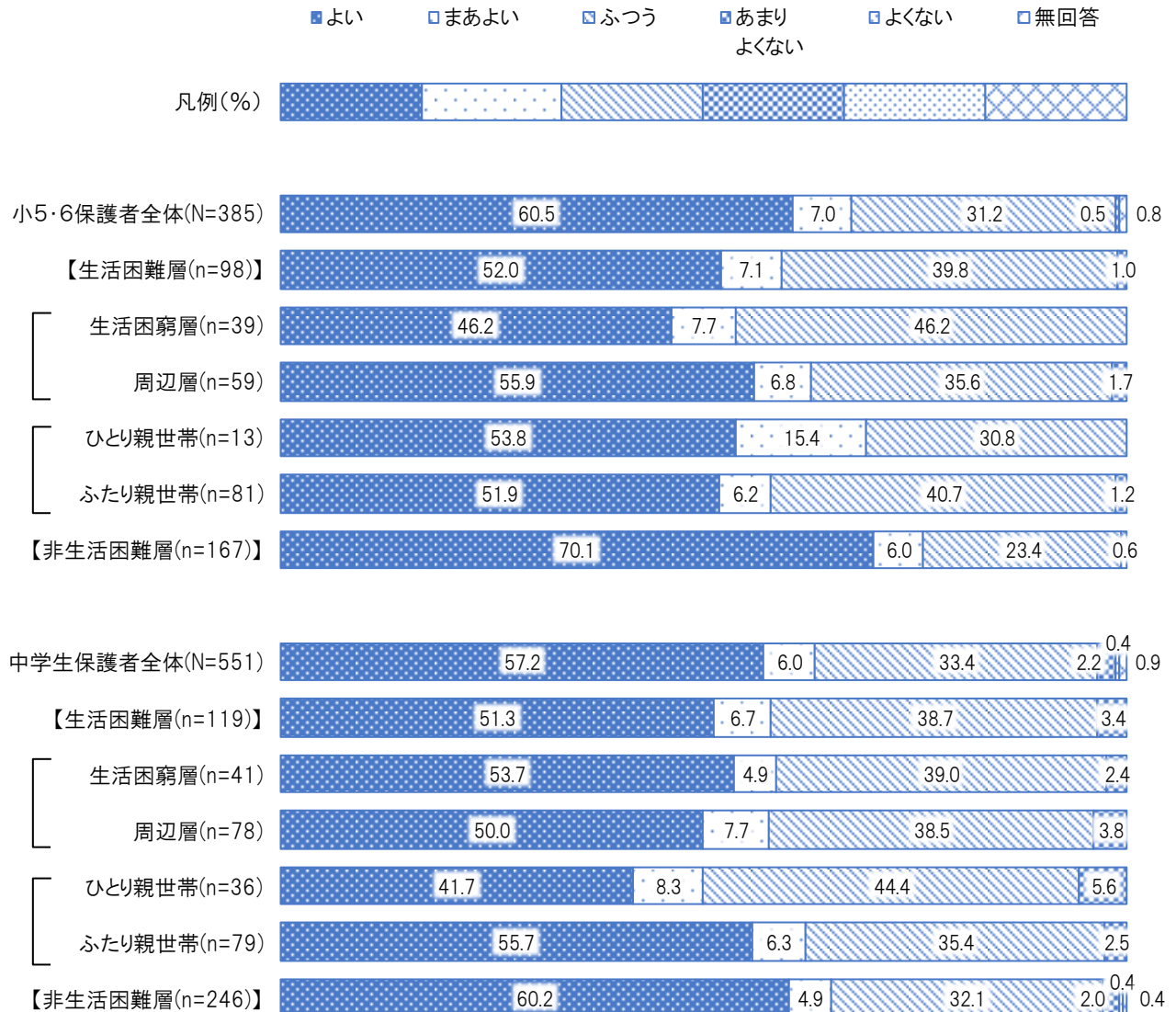


(2) 保護者からみた子供の健康状態 (P193)

保護者からみた子供の健康状態については、小学5・6年保護者全体では「よい」が60.5%、中学生保護者全体では57.2%となっている。

生活困難度別にみた「よい」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で46.2%、周辺層で55.9%となっており、生活困窮層で低くなっている。

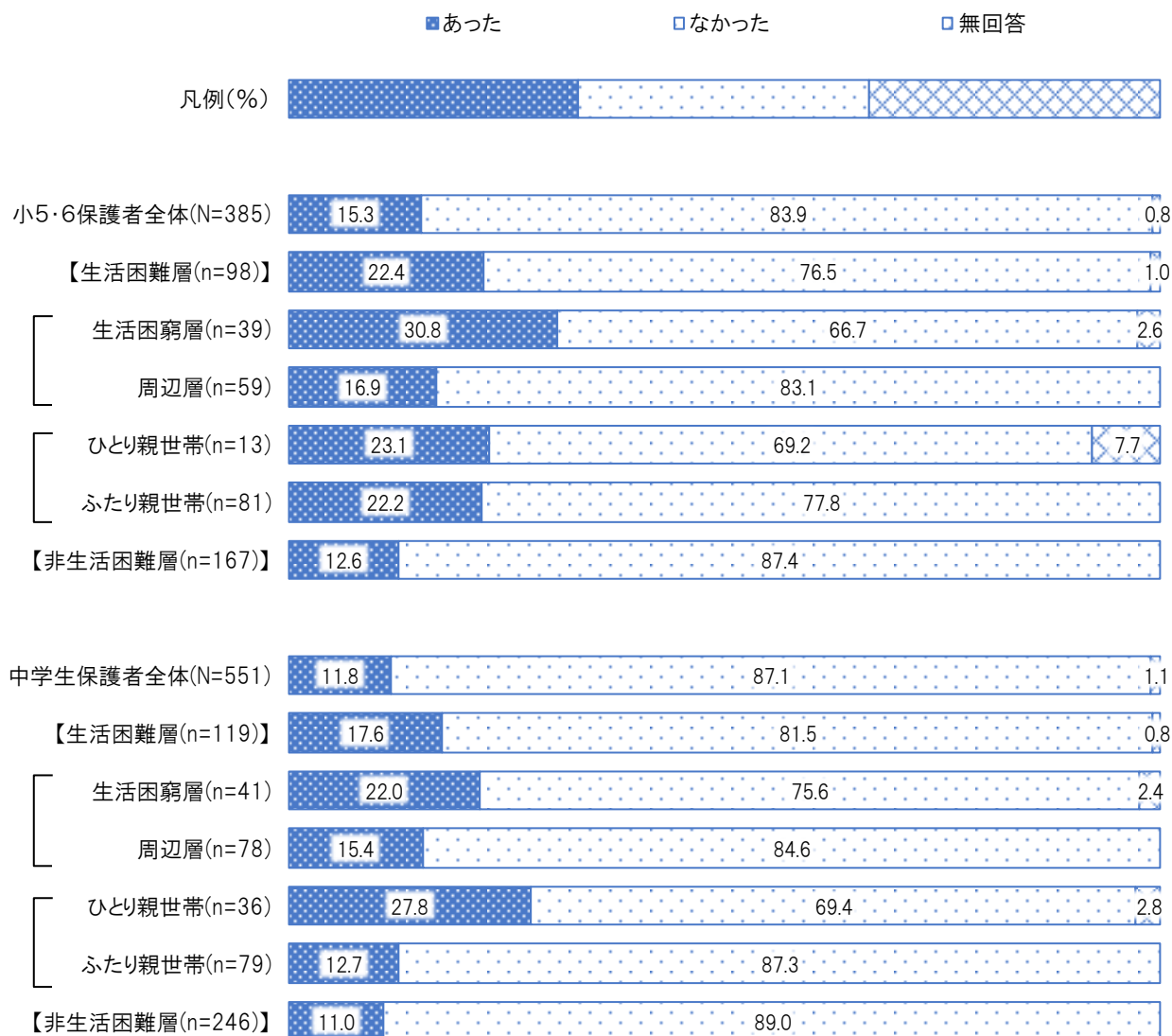
生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「よい」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



(3) 子供の医療受診抑制経験とその理由 (P194)

子供の医療受診抑制経験について「あった」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で30.8%、中学生保護者で22.0%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。生活困難層世帯タイプ別では、中学生保護者のひとり親世帯で「あった」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。

子供の医療受診を抑制した理由については、非生活困難層では「最初は受診させようと思ったが、お子さんの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が最も高いのに対し、生活困難層では「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」「お子さん本人が受診したがらなかったため」などが高くなっている。



【2】自己肯定感（P207）

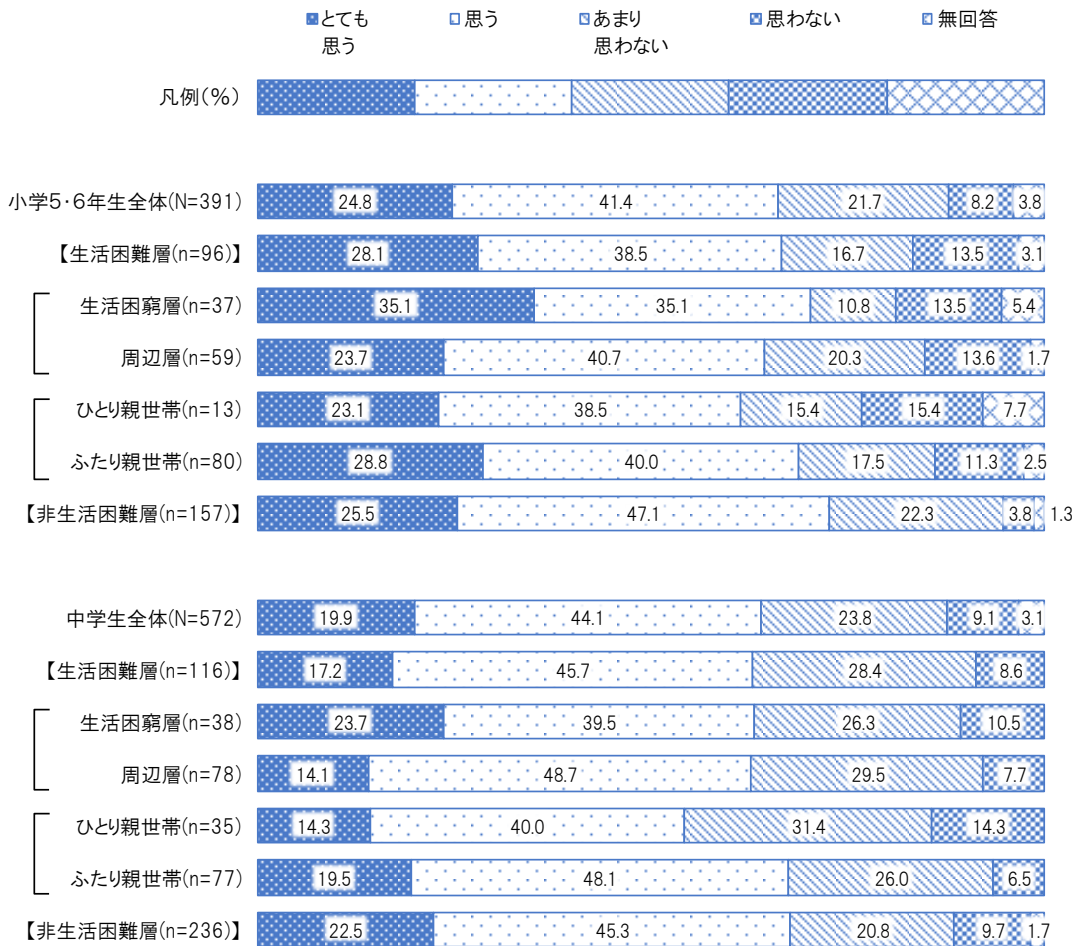
（1）自己肯定感（P207）

自己肯定感について「とても思う」の割合が高い項目として「がんばれば、むくわれる」「自分は家族に大事にされている」「自分の将来が楽しみだ」などがあげられる。また、全体的に生活困難度が高い層ほど自己肯定感が低い傾向がみられる。

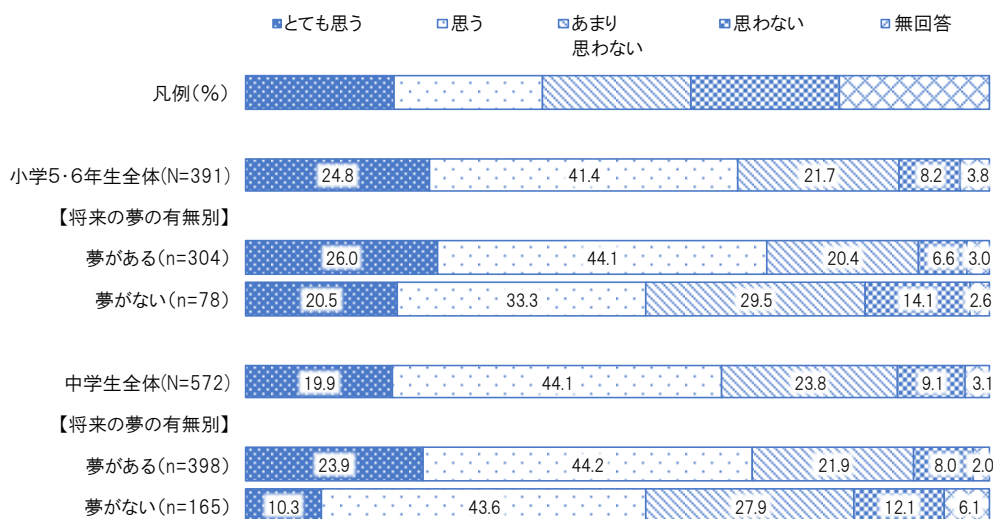
①自分は価値のある人間だ

自分は価値のある人間だと思うことについて「思わない」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で13.5%，周辺層で13.6%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、中学生のひとり親世帯で「あまり思わない」「思わない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



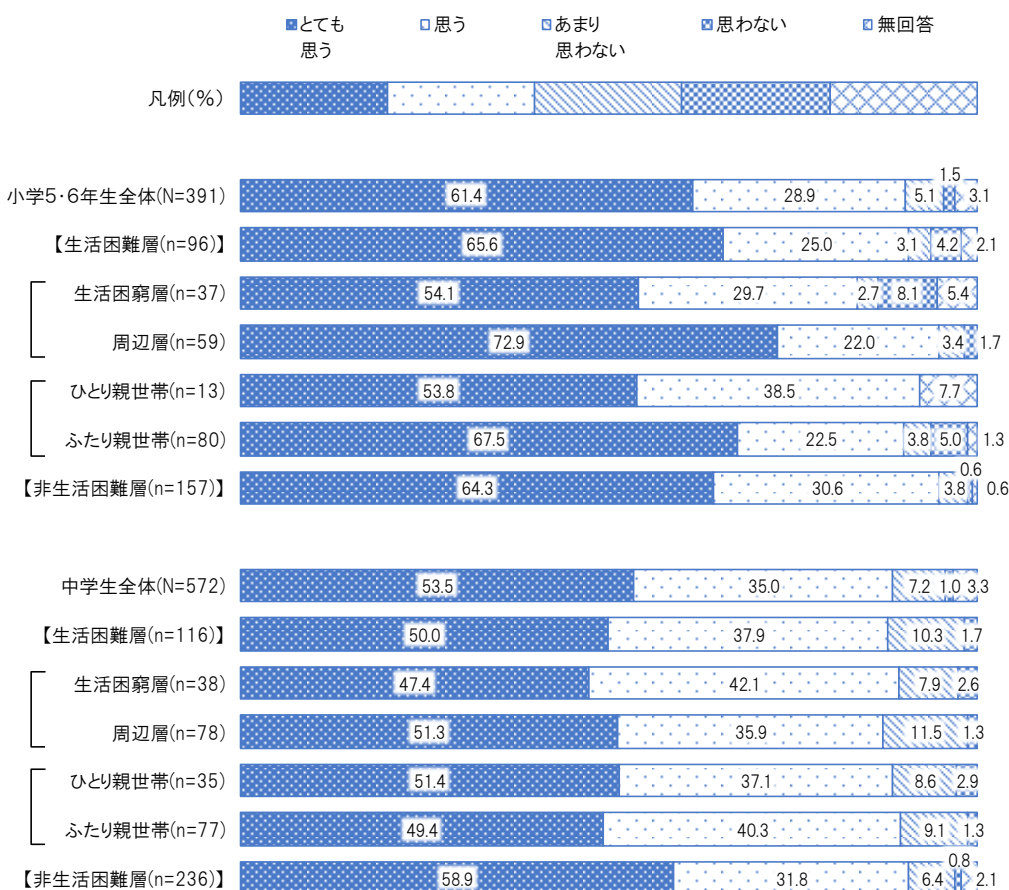
将来の夢の有無別でみると、小学5・6年生、中学生ともに夢がある層では、夢がない層に比べ「とても思う」の割合が高くなっている。



②自分は家族に大事にされている

自分は家族に大事にされていると思うことについて「とても思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で 54.1%，周辺層で 72.9%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。中学生では、生活困窮層で 47.4%，周辺層で 51.3%となっており、非生活困難層に比べて低くなっている。

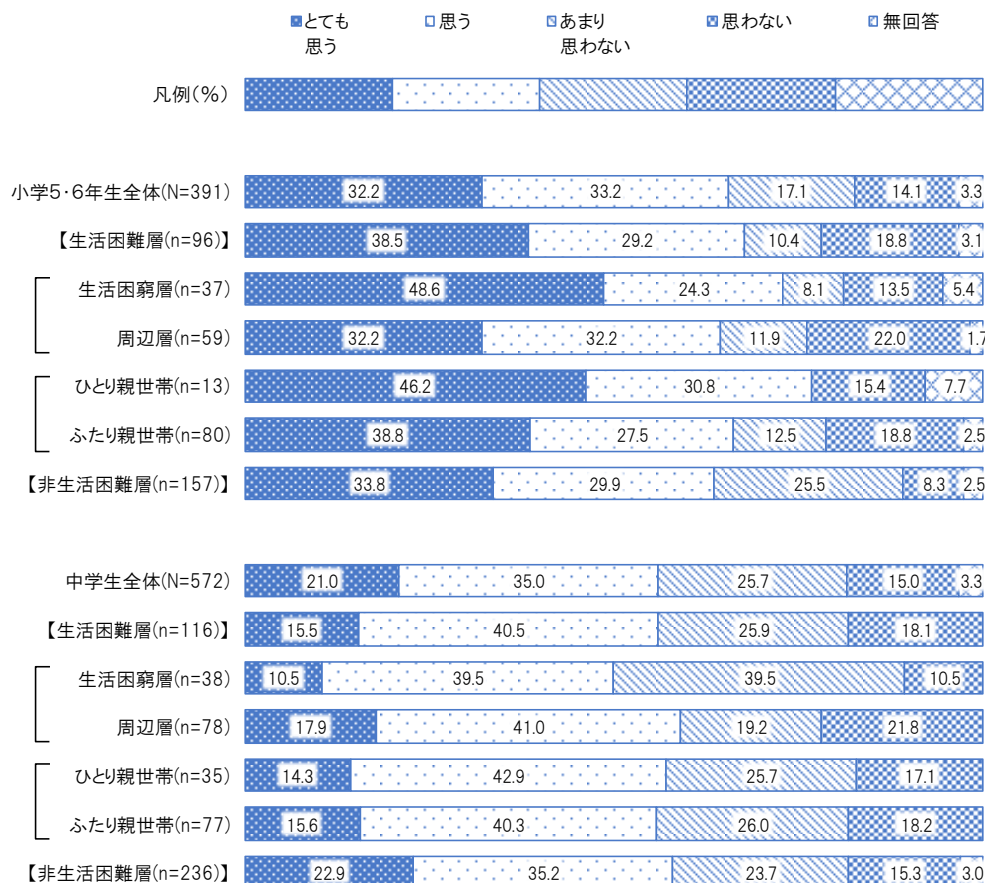
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のひとり親世帯で「とても思う」の割合がふたり親世帯に比べて低くなっている。



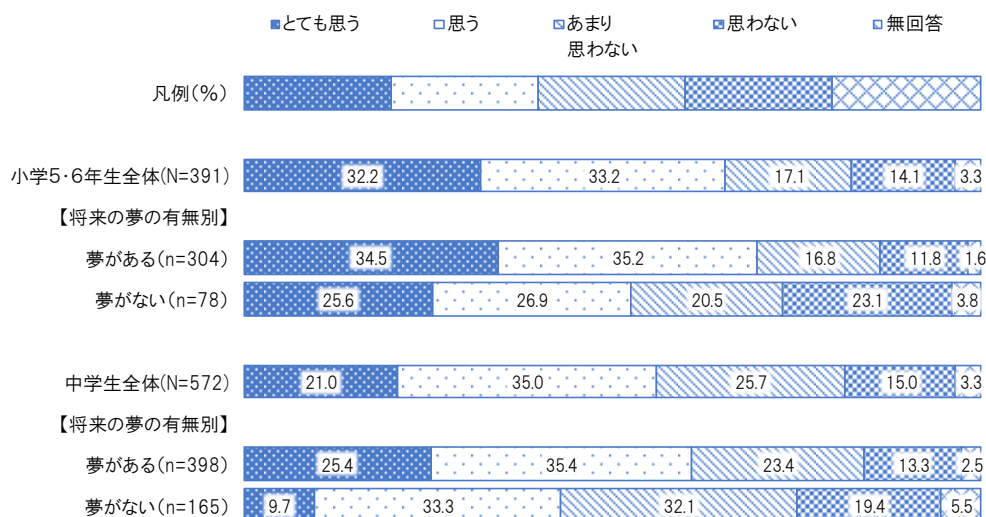
③自分のことが好きだ

自分のことが好きだと思うことについて「とても思う」の割合は、小学5・6年生の生活困窮層で48.6%、周辺層で32.2%となっており、周辺層で低くなっている。中学生では、生活困窮層で「あまり思わない」の割合が39.5%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年生のふたり親世帯で「とても思う」の割合がひとり親世帯に比べて低くなっている。



将来の夢の有無別でみると、小学5・6年生、中学生ともに夢がある層では、夢がない層に比べ「とても思う」の割合が高くなっている。

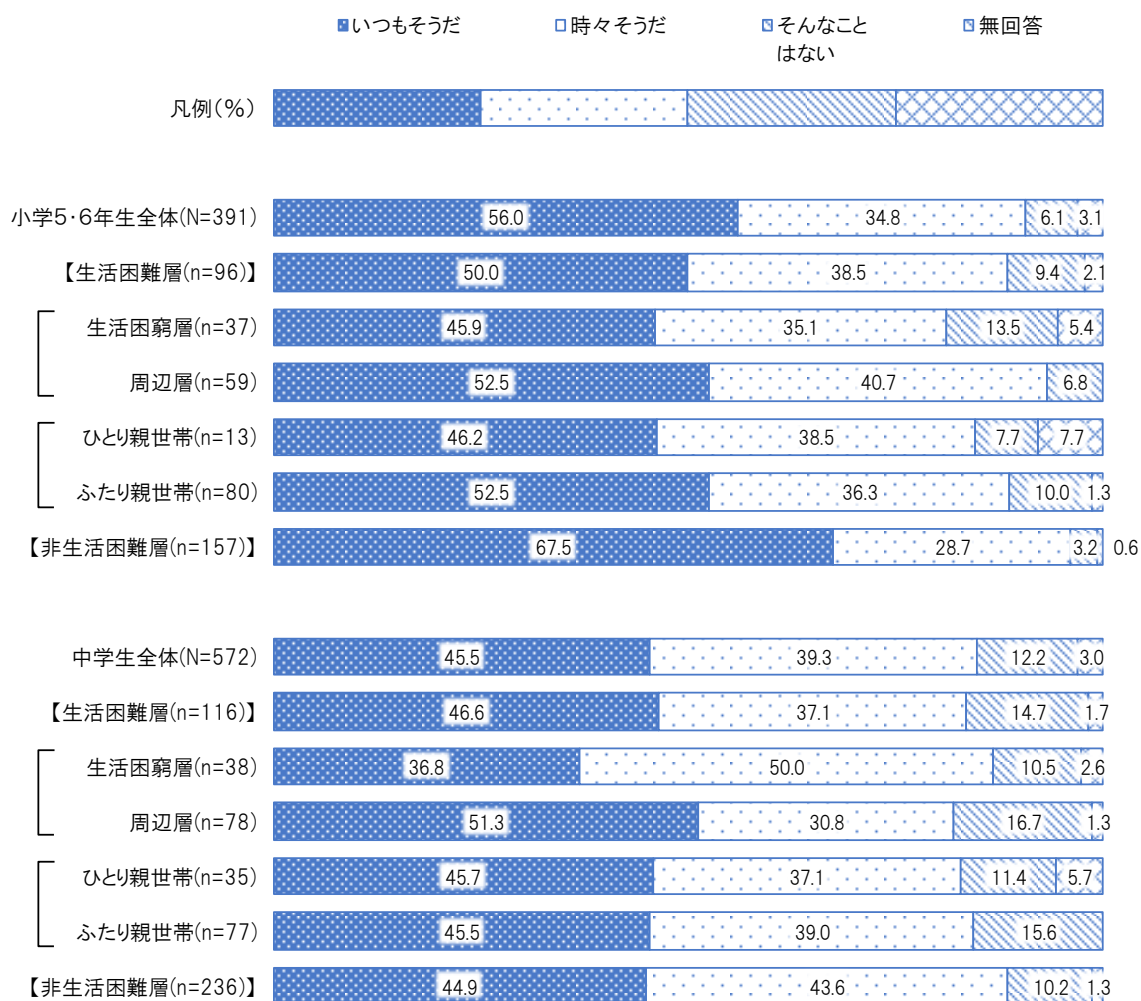


(2) 心の状態 (P221)

「逃げ出したいような気がする」「家族と話すのが好きだ」などの心の状態については、自己肯定感と同様、生活困難度が高い層ほど不安定な傾向がみられる。特に、「とても良く眠れる」ことについて「いつもそうだ」の割合は、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

また、「いじめられても自分でやめてと言える」ことについては、小学5・6年生の生活困窮層で「いつもそうだ」の割合が他の層を大きく下回っており、「家族と話すのが好きである」ことについて「いつもそうだ」の割合は、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

【とても良く眠れる】

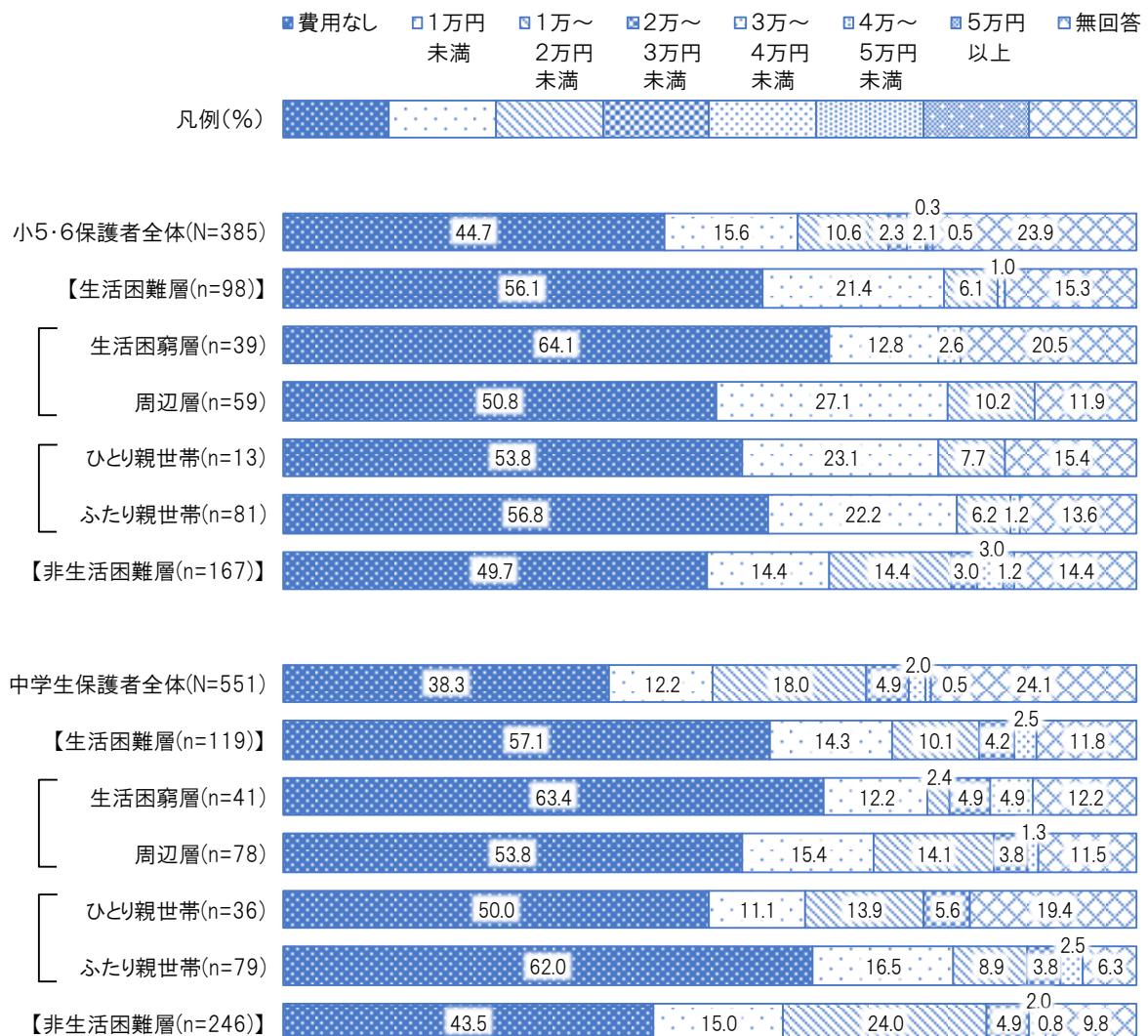


第6章 子育てと各種制度・サービス

【1】子育てにかかる費用（P242）

子育てにかかる費用について、「衣類代」「携帯代」については、生活困難度による大きな差はみられないが、「塾など、学校外でかかる教育費」「スポーツクラブ・部活動」などにかかる費用には差がみられる。特に、「塾など、学校外でかかる教育費」においては、生活困難度が高い層ほど「費用なし」の割合が高くなる傾向にある。

【塾など、学校外でかかる教育費】



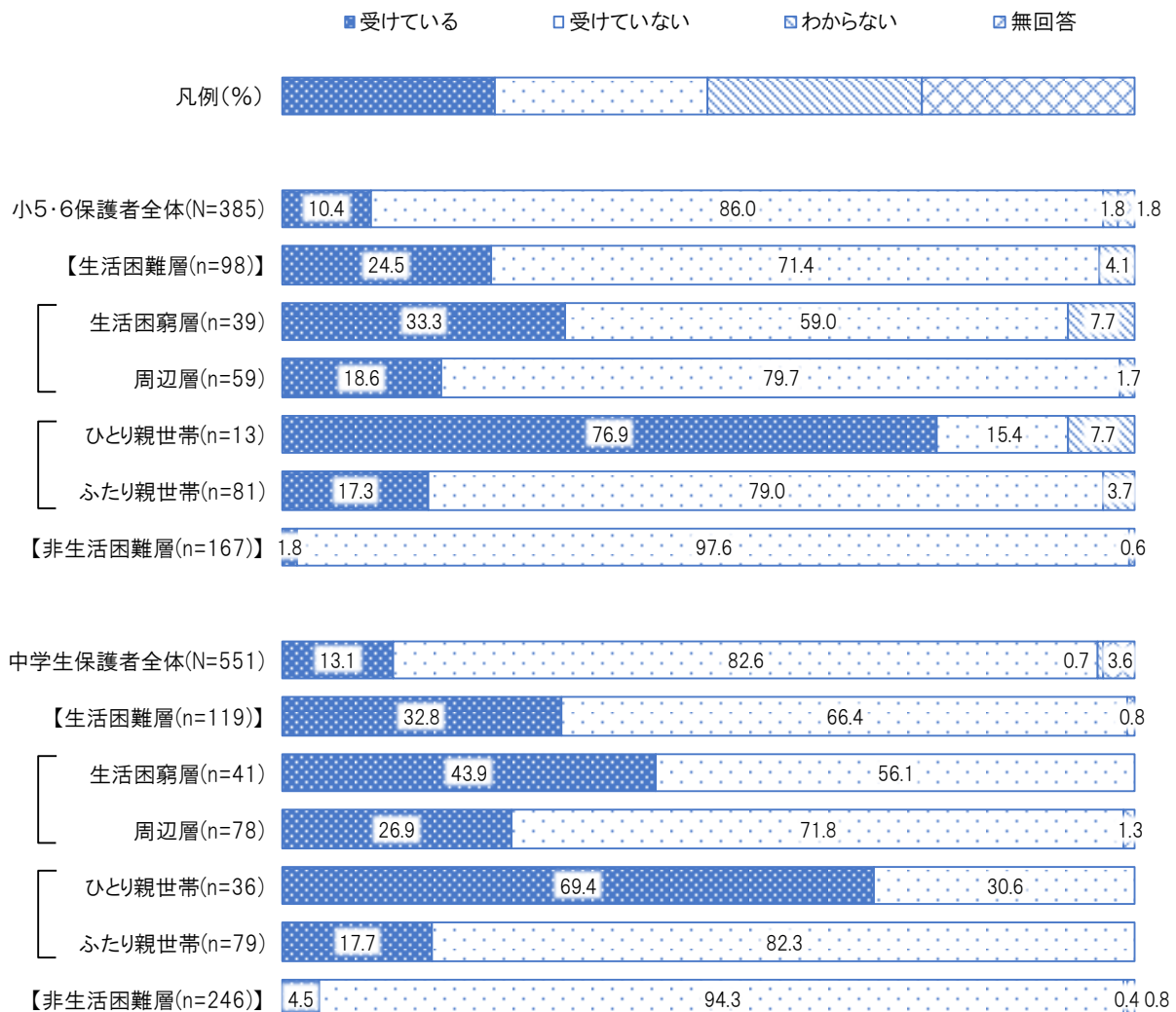
【2】就学援助（P252）

（1）就学援助受給状況（P252）

就学援助受給状況について、生活困難度別にみた「受けている」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で33.3%、中学生保護者で43.9%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者、中学生保護者ともにひとり親世帯で「受けている」の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。

就学援助を受給していない理由について生活困難度別にみると、生活困窮層で「申請しなかった（必要であるが、申請要件を満たしていないと判断した）」「申請しなかった（必要であるが、申請することに抵抗があった）」の割合が他の層に比べて高くなっている。



（2）支給額と実費との差が大きい経費（P255）

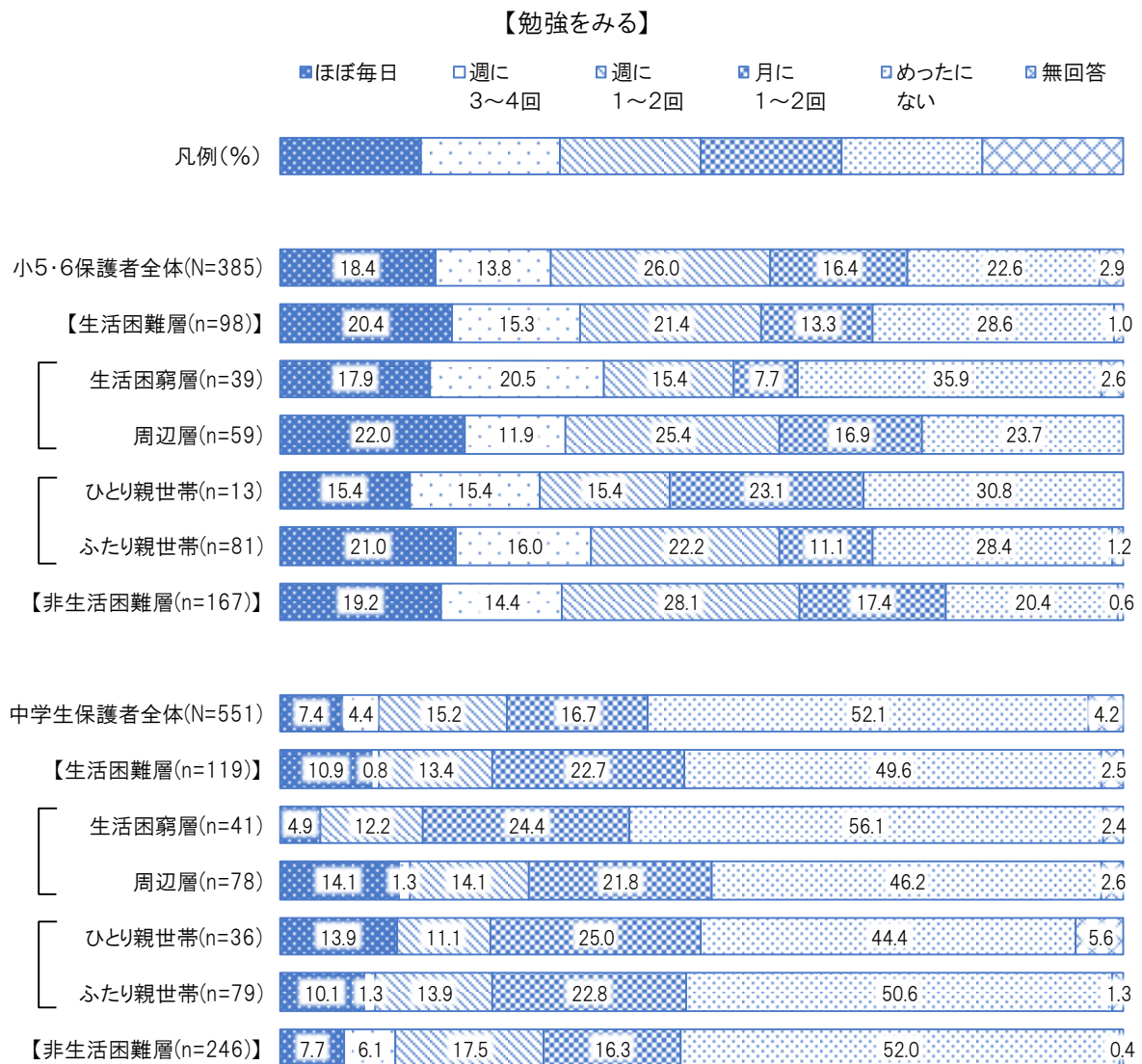
支給額と実費との差が大きい経費について生活困窮層では、小学5・6年保護者では「学用品費」、中学生保護者では「部活動費」の割合が、それぞれ周辺層を大きく上回っている。

【3】子供とのかかわり（P265）

（1）子供とのかかわり頻度（P265）

子供とのかかわり頻度については、勉強をみることについて「めったにない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で35.9%，中学生保護者で56.1%となっており、非生活困窮層に比べて高くなっている。

また、「学校生活の話をする」「勉強や成績の話をする」ことについて、生活困窮層は「ほぼ毎日」の割合が周辺層を大きく下回っている。



【4】子供のしつけ（P278）

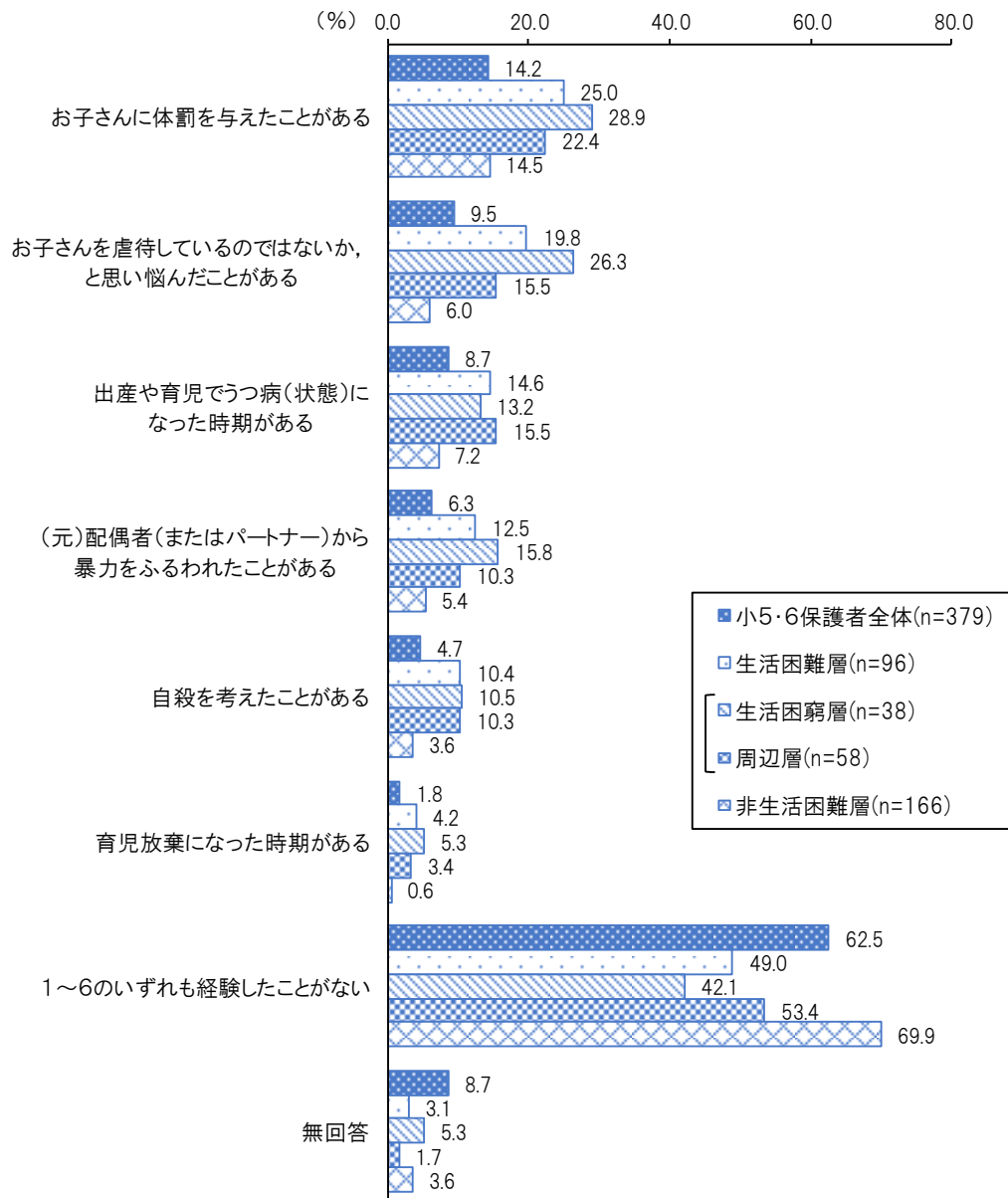
子供のしつけについて、生活困難度が高い層ほど「あてはまる」が低くなる項目として「小さいころ、絵本の読み聞かせをした」「計画的に勉強するよう促している」「英語や外国の文化に触れるよう意識している」があげられる。

また、小学5・6年保護者の生活困窮層では「よいところをほめるなどして自信を持たせるようにしている」「本や新聞を読むようにすすめている」「心配事や悩みごとの相談によく乗っている」で「あてはまる」の割合が周辺層を大きく下回っている。

【5】子育て上の経験（P291）

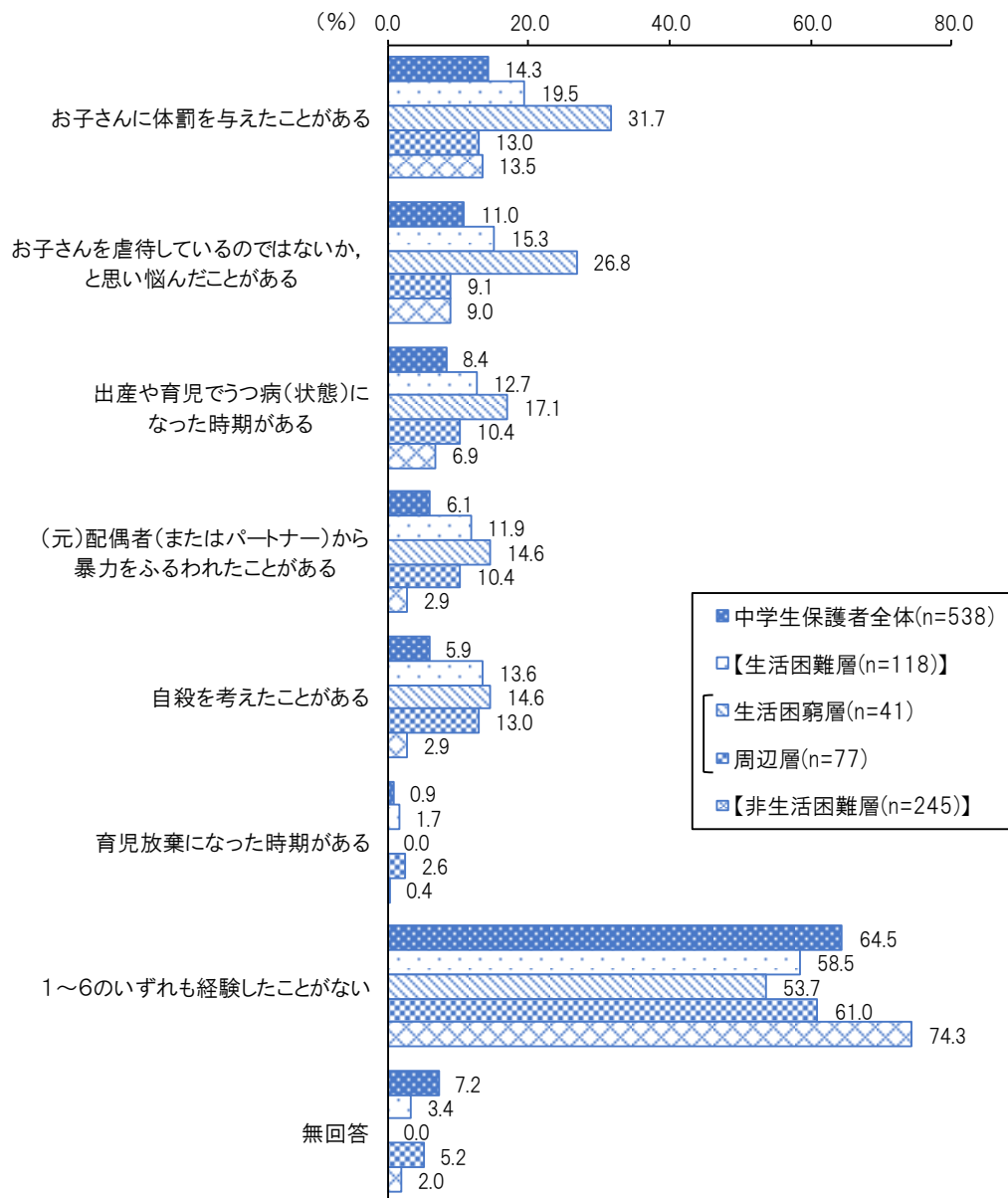
子育て上の経験について、小学5・6年保護者全体では「お子さんに体罰を与えたことがある」が14.2%と最も高く、次いで「お子さんを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」（9.5%）、「出産や育児でうつ病（状態）になった時期がある」（8.7%）の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「お子さんに体罰を与えたことがある」「お子さんを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」などの割合が他の層に比べて高くなっている。



中学生保護者全体では、「お子さんに体罰を与えたことがある」が14.3%と最も高く、次いで「お子さんを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」(11.0%)が続いている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「お子さんに体罰を与えたことがある」「お子さんを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」などの割合が他の層に比べて高くなっている。



【6】制度・サービスの利用（P293）

（1）子供関連情報の入手方法の現状と意向（P293）

現在の受け取り方法については、「学校からのお便り（紙のもの）」「行政機関の広報誌」「家族や友人からの情報」などの割合が高く、生活困窮層では「学校からのお便り（紙のもの）」「家族や友人からの情報」などの割合が高くなっている。

今後、受け取りたい方法については、生活困難層で「SNS（LINE，ツイッターなど）」などの割合が高くなっている。

（2）各種支援制度の利用経験（P297）

「地域子育て支援センター・子育てひろば」「小学校高学年も利用できる児童館や放課後児童クラブ」「学校が実施する補講（学習支援）」について、小学5・6年保護者の生活困窮者で「利用したことがある」の割合が周辺層に比べて低くなっている。一方、中学生保護者の生活困窮層で「学校が実施する補講（学習支援）」を「利用したことがある」の割合が周辺層に比べて高くなっている。

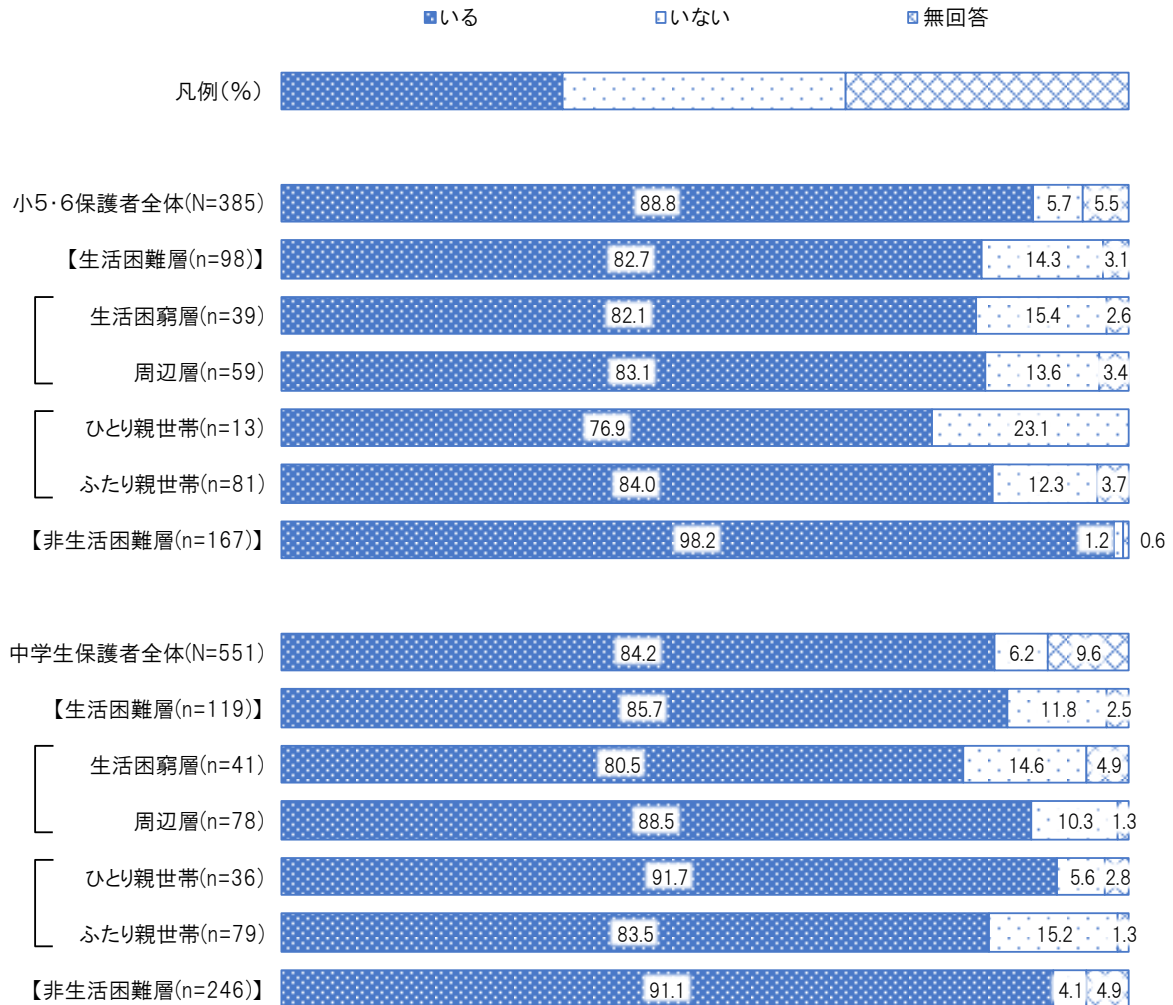
（3）各種経済的支援制度の利用経験（P307）

「生活保護」「児童扶養手当」について、ひとり親世帯で「利用したことがある」の割合が高くなっている。また、生活困難度が高い層ほど「制度等について全く知らなかった」の割合が高くなる傾向があり、制度に関する情報が届いていないことがうかがえる。

【7】相談（P315）

（1）相談相手の有無（P315）

相談相手の有無について「いる」の割合は、非生活困難層では9割以上となっているが、生活困難度別にみると、小学5・6年保護者の生活困窮層で82.1%、中学生保護者の生活困窮層で80.5%と低くなっている。



（2）公的相談機関の利用経験（P316）

公的相談機関の利用経験について、「県・市町の窓口」「地域子育て支援センター」では、非生活困難層に比べ生活困難層において「相談したことがある」の割合が高くなっている。また、中学生保護者の生活困窮層では「ハローワーク」に「相談したことがある」の割合が他の層を大きく上回っている。

一方、全体的に生活困難度が高い層ほど「相談したかったが、抵抗感があった」「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合が高くなる傾向にある。

第7章 保護者の状況

【1】回答者（P327）

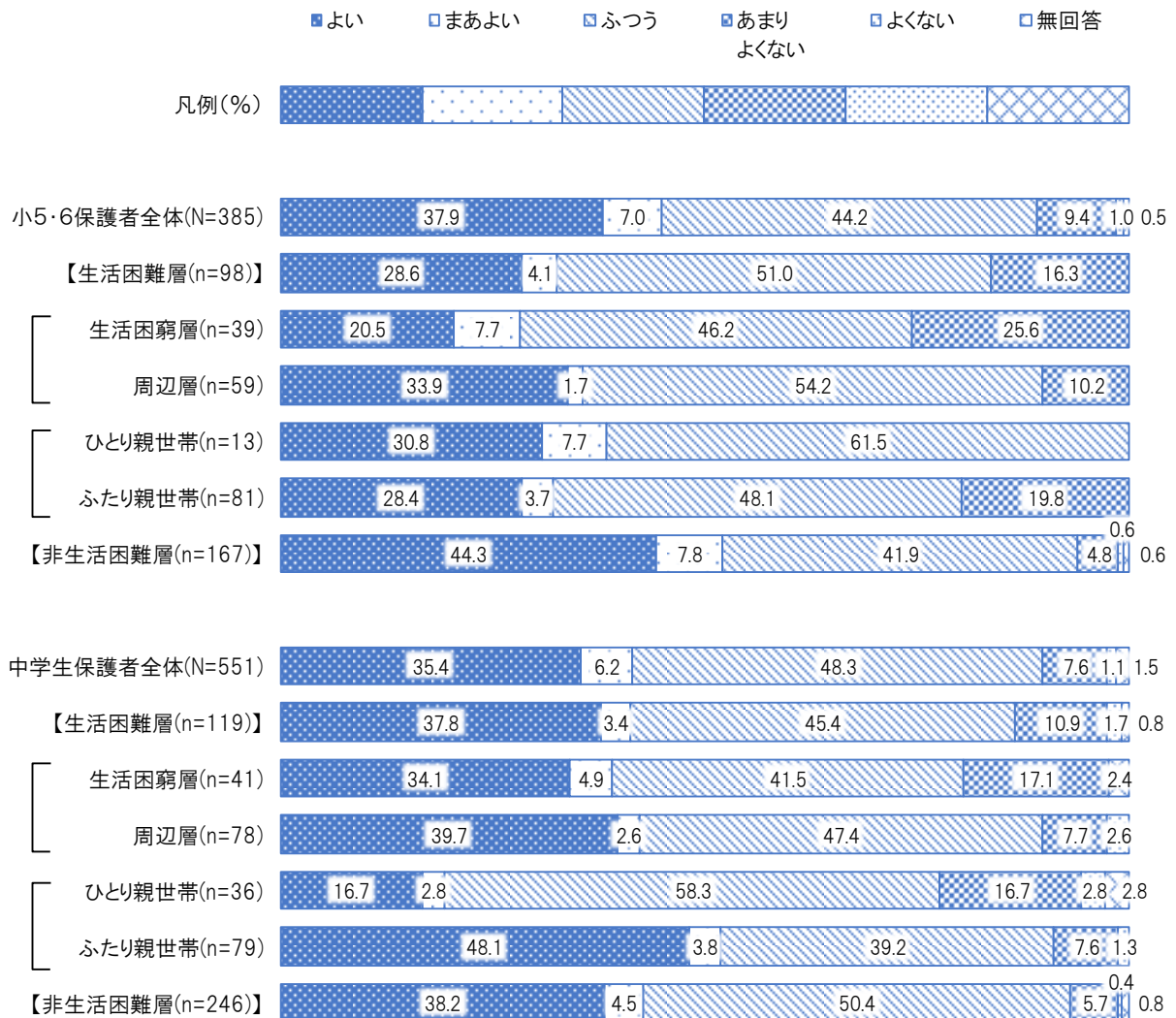
（1）婚姻状況（P327）

婚姻状況については、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに「結婚している（事実婚を含む）」が8割以上を占め、「離婚（別居中を含む）」が1割程度となっている。

（2）健康状態（P328）

健康状態について「よい」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で20.5%，周辺層で33.9%，中学生保護者の生活困窮層で34.1%，周辺層で39.7%となっており、生活困難度が高い層ほど低くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のふたり親世帯で「あまりよくない」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。また、中学生保護者のひとり親世帯で「よい」の割合がふたり親世帯を大きく下回っている。



(3) 心の状態 (P329)

一般的にうつ傾向を測る指標として普及している項目について尋ねたところ、「いつも」「たいてい」「ときどき」を合計した割合でみると、すべての項目において生活困難度が高い層ほど増える傾向にあり、子供票の傾向と同じく、生活困難層の保護者も自己肯定感が低く、うつ傾向を抱えていることがうかがえる。

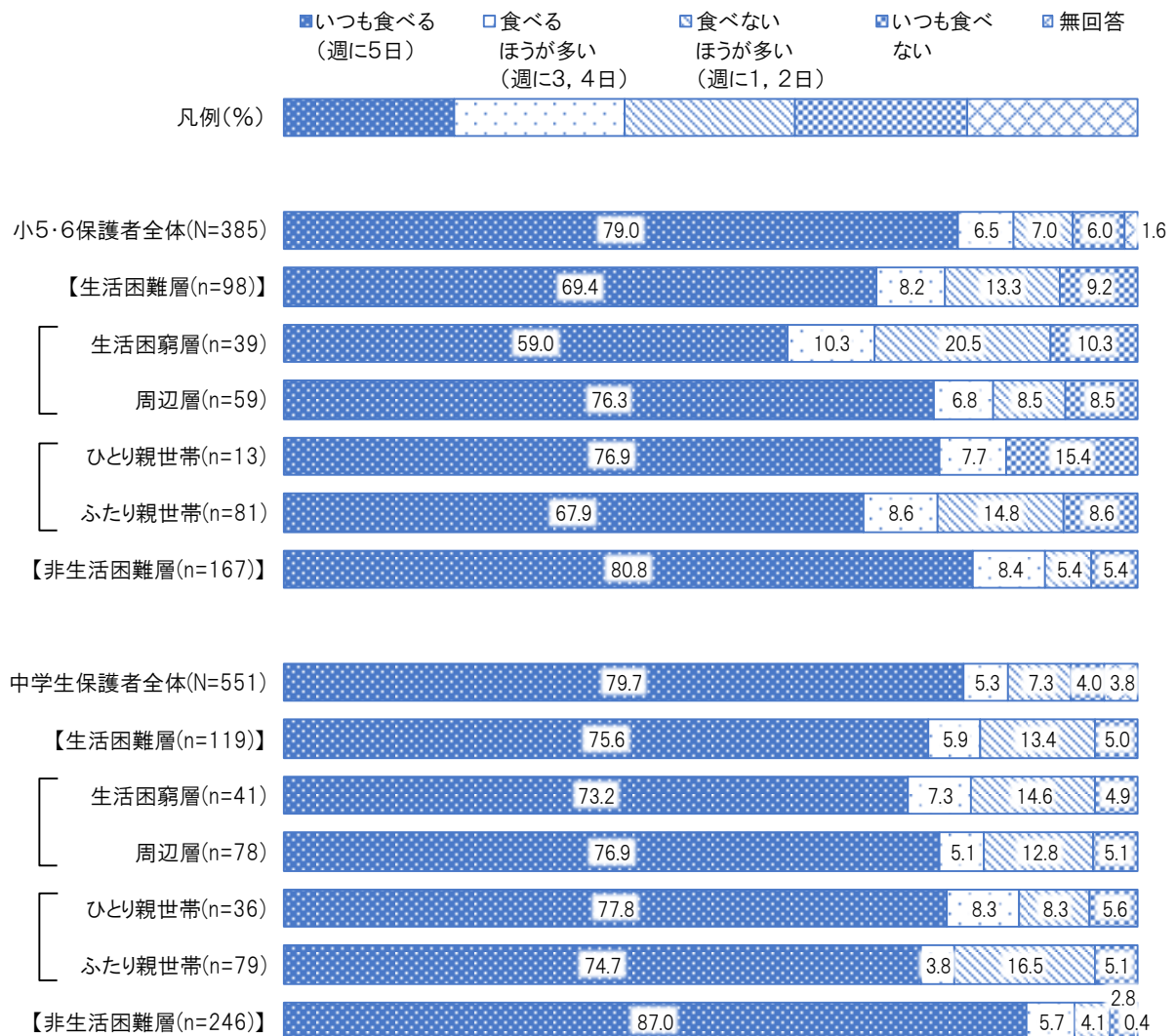
特に、生活困窮層で「そわそわ落ち着かなく感じる」「気分が沈み込んで、何が起ころても気が晴れないように感じる」「何をするのも骨折りだと感じる」などの割合が高くなっている。

(4) 朝食をとる頻度 (P336)

朝食をとる頻度については、小学5・6年保護者、中学生保護者ともに、「いつも食べる(週に5日)」の割合が約8割を占めている。

生活困難度別にみると、小学5・6年保護者の生活困窮層で「食べないほうが多い(週に1, 2日)」の割合が20.5%となっており、非生活困難層に比べて高くなっている。

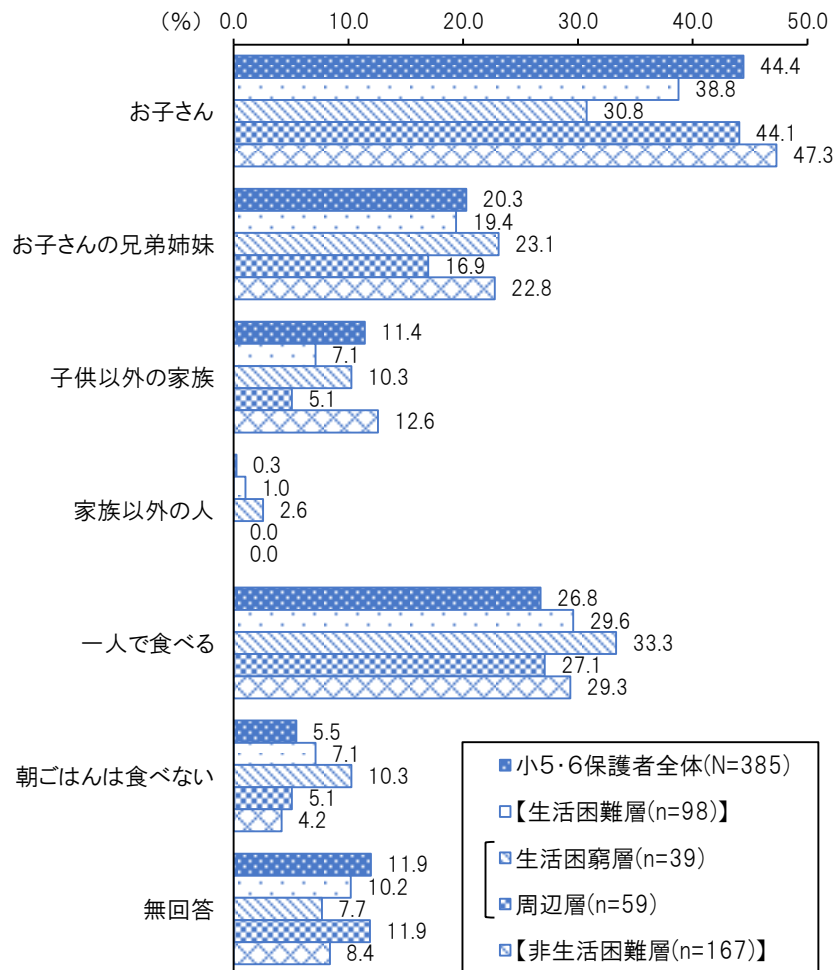
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「いつも食べない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。



(5) 朝食を一緒にとる人 (P337)

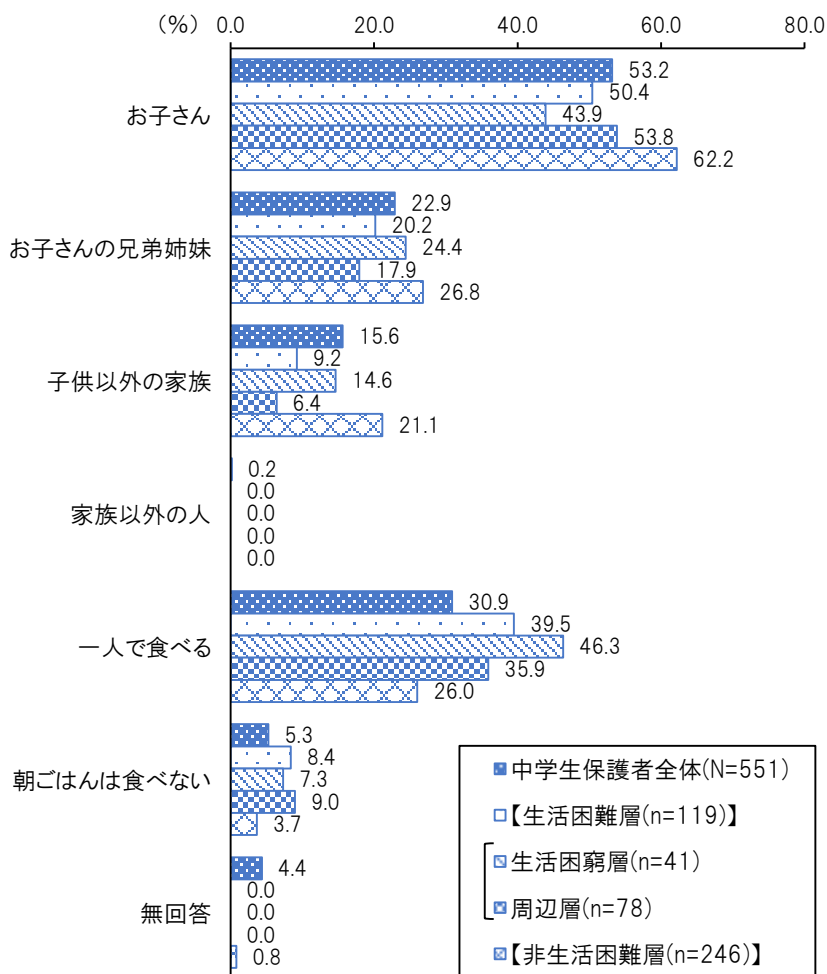
朝食を一緒にとる人について、小学5・6年保護者全体では「お子さん」が44.4%と最も高く、次いで「一人で食べる」(26.8%)、「お子さんの兄弟姉妹」(20.3%)の順となっている。

生活困難度別にみると、生活困窮層で「お子さん」などの割合が低く、「一人で食べる」「朝ごはんは食べない」の割合が他の層に比べてやや高くなっている。



中学生保護者全体では、「お子さん」が53.2%と最も高く、次いで「一人で食べる」(30.9%)、「お子さんの兄弟姉妹」(22.9%)の順となっている。

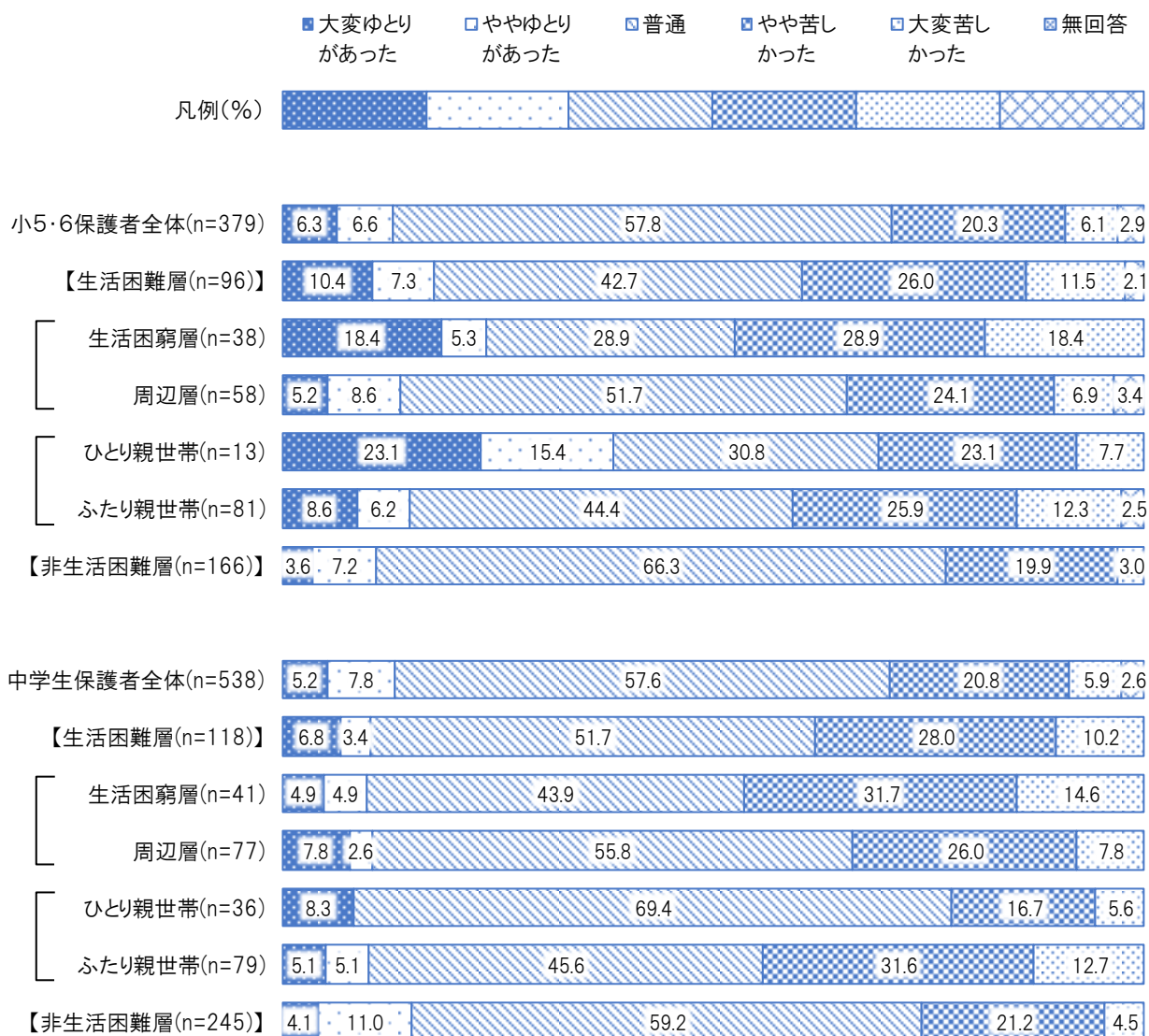
生活困難度別にみると、生活困窮層で「お子さん」などの割合が低く、「一人で食べる」の割合が他の層に比べて高くなっている。



(6) 15歳の頃の(主観的)暮らし向き(P341)

15歳の頃の(主観的)暮らし向きについて『苦しかった(合計)』の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で47.3%、中学生保護者で46.3%となっており、生活困難度が高い層ほど増える傾向にある。

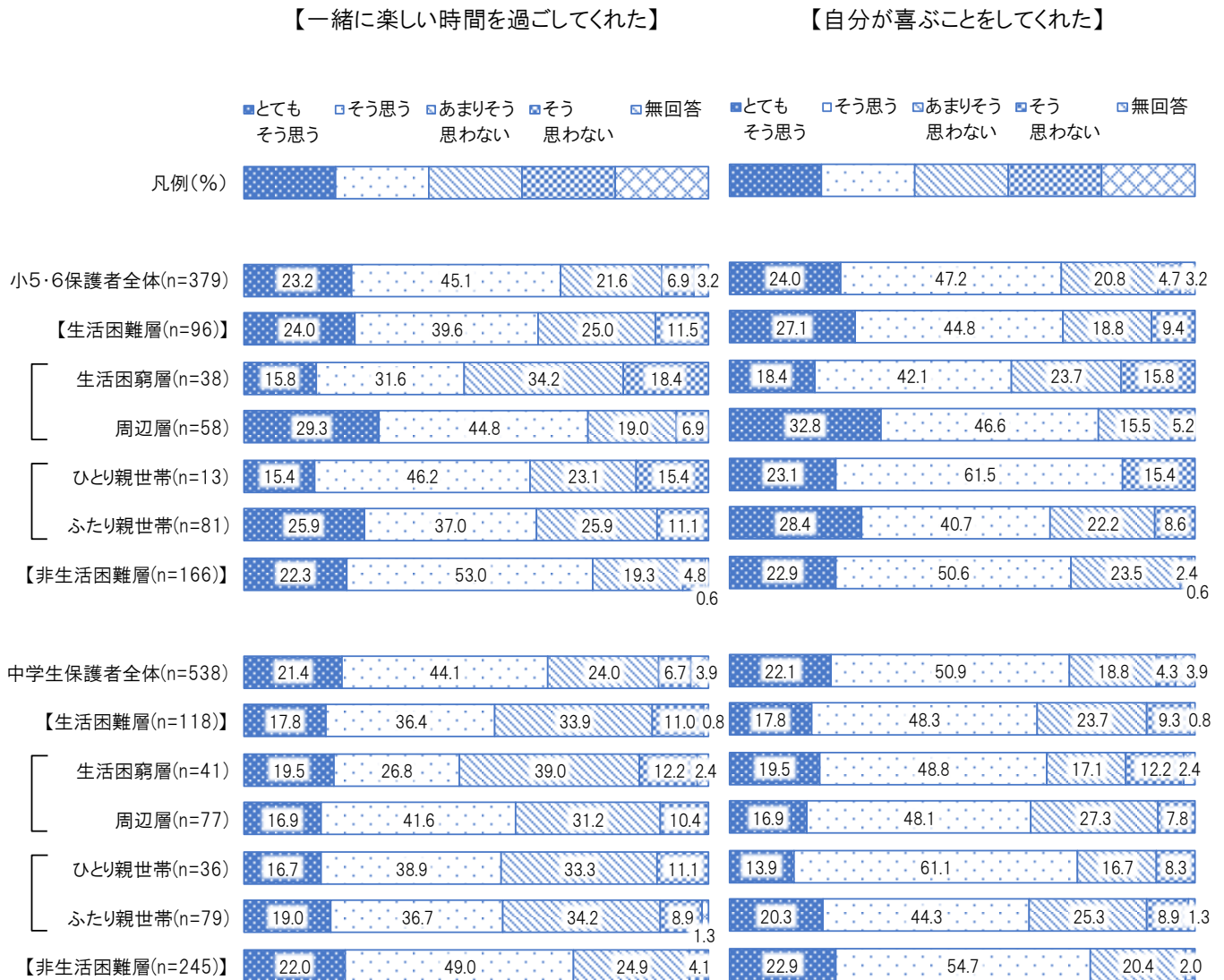
生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で『ゆとりがあった(合計)』の割合がふたり親世帯を大きく上回っている。また、中学生保護者のふたり親世帯で「やや苦しかった」の割合がひとり親世帯に比べて高くなっている。



(7) 成人するまでの体験 (P342)

成人するまでの体験について生活困窮層では、「両親が離婚した」「親から暴力を振るわれた」「父親が亡くなった」「育児放棄(ネグレクト)された」の割合が他の層に比べて高くなっている。

子供の頃の親の接し方については、「一緒に楽しい時間を過ごしてくれた」「自分が喜ぶことをしてくれた」といった経験に関する項目において、生活困窮層は「とてもそう思う」「そう思う」の合計が非生活困難層を大きく下回っている。



【2】家族（P349）

（1）頼れる親族・友人の有無（P351）

頼れる親族・友人の有無について「いない」の割合は、小学5・6年保護者の生活困窮層で28.2%、周辺層で13.6%となっており、生活困窮層で高くなっている。一方、中学生保護者では、生活困窮層で4.9%、周辺層で19.2%となっており、周辺層で高くなっている。

生活困難層世帯タイプ別では、小学5・6年保護者のひとり親世帯で「いない」の割合がふたり親世帯に比べて高くなっている。

（2）母親のこと（P353）

職業について生活困窮層は、「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」の割合が低く、「契約社員・派遣社員・嘱託社員」「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」「専業主婦」などの割合がやや高くなっている。

最終学歴について生活困窮層は、「高等学校（全日制）（高等部）」の割合がやや高く、「短期大学」「専門学校（高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程）（専攻科を含む）」「大学」の割合が他の層に比べて低くなっている。

平日日中以外の勤務状況について小学5・6年保護者の生活困窮層では、「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」などの割合が他の層に比べて高くなっている。一方、中学生保護者の生活困窮層では、「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」などの割合が低く、「平日の日中以外の勤務はない」の割合が他の層に比べて高くなっている。

（3）父親のこと（P363）

職業について生活困窮層は、「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」の割合が他の層に比べて低く、「自営業（家族従業者を含む）」の割合が他の層に比べてやや高くなっている。

最終学歴については、母親の場合と同様に、生活困窮層は「高等学校（全日制）（高等部）」の割合が高く、「専門学校（高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程）（専攻科を含む）」「大学」の割合が他の層に比べて低くなっている。

平日日中以外の勤務状況について生活困窮層は、「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」の割合が他の層に比べてやや高くなっている。

**安芸高田市子供の生活実態調査
報告書（概要版）**

発 行 行／平成 30 年 3 月
発 行 者／広島県 安芸高田市 子育て支援課
〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田 791 番地
TEL (0826) 47-1283
FAX (0826) 42-2130
